マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

セットアップガイド

- パソコンの準備
- Windowsのセットアップ
- 電源の切りかた
- Q&A集（電源が入らないとき）
- リカバリ（再セットアップ）
- デイリーケアとアフターケア

など

取扱説明書

- 電源の入れかた
- 各部の名前
- 増設メモリの取り付け／取りはずし
- バッテリパックの交換
- システム環境の変更とは

など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリで使う方法
- システム環境の変更
- パソコンの動作がおかしいとき／Q&A集

など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。

参照 「はじめに- 7 リリース情報について」

もくじ

3章 ネットワークの世界へ 65

4章 周辺機器を使って機能を広げよう..........73

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

記号	意味
⚠危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『　』、《　》

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows Vistaです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows Vista

Windows Vista® Home Premiumを示します。

ドライブ

DVDスーパーマルチドライブを示します。

HDD1台搭載モデル

ハードディスクドライブが1台搭載されているモデルを示します。

HDD2台搭載モデル

ハードディスクドライブが2台搭載されているモデルを示します。

Office搭載モデル

Microsoft® Office Personal 2007がプレインストールされているモデルを示します。
モデルによっては、Microsoft® Office PowerPoint® 2007もプレインストールされています。

GXシリーズ

dynabook Qosmioシリーズで、モデル名が「GX」で始まるモデルを示します。

GXWシリーズ

dynabook Qosmioシリーズで、モデル名が「GXW」で始まるモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について「コントロールパネルホーム」に設定していることを前提に記載しています。「クラシック表示」になっている場合は、「コントロールパネルホーム」に切り替えてから操作説明を確認してください。

参照 コントロールパネルホームとクラシック表示『Windowsヘルプとサポート』

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Vista、Excel、Outlook、PowerPointは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、インテル、インテル Core、Centrinoは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- MagicGate、メモリースティック、メモリースティックロゴ、メモリースティック Duo、メモリースティックPRO、メモリースティックPRO Duoは、ソニー株式会社の商標です。
- SDロゴは商標です。（ ）
- SDHCロゴは商標です。（ ）
- xD-ピクチャーカード™は、富士写真フイルム株式会社の商標です。
- i.LINK、i.LINKロゴは商標です。
- HDMI およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC. の登録商標または商標です。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
  Dolby、ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの登録商標です。
- MaxxAudio®およびMaxxAudioロゴはWaves Audio Ltd.の登録商標です。
- ConfigFreeは、株式会社東芝の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■64ビットプロセッサに関する注意

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。
64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS（オペレーティングシステム）がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。
プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。

このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

6 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

8 使い終わったとき

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る方法のほかに、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する方法があります。この機能を、「スリープ」と呼びます。
スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。その場合スリープ中でもバッテリを消耗しますので、ACアダプタを取り付けておくことを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

参照 スリープ／電源を切る『セットアップガイド』

9 お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは『セットアップガイド』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。

- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。
  HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- 指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
- 指紋認証機能は、データやハードウェアの完全な保護を保証しておりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルおよびファイアウォール規則などは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピュータを保護するためにも、常に最新のものにアップデートする必要があります。最新版へのアップデートは、ご使用開始から90日間に限り無料で行うことができます。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
  ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有償の正規サービスへ登録するか、市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されなくなります。リカバリを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。弊社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

10 ［ユーザー アカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから［続行］または［許可］ボタンをクリックしてください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

1 章

使いはじめる前に

前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」やシステムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリディスクを作成する方法について説明します。

1 前のパソコンのデータを移行する －PC引越ナビ－

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。事前に次の点を確認しておくと、よりスムーズに操作ができます。

ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「本製品」として説明します。

パソコンの仕様を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- **システム**＊1
  Windows 98 SE／Windows Me／Windows 2000／Windows XP Home／Windows XP Professional／Windows Vista

＊1 マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以外のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。
システムの正式名称は次のとおりです。
Windows 98 SE…Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows Me…Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000…Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows XP Home…Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版
Windows XP Professinal…Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版

お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、「付録 1-1 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

■使用できるメディアや環境を確認する

設定・データの移行をするには、次の方法があります。

- メディアを使用する
- ネットワーク（LAN）を使用する
- クロスケーブル（LAN）を使用する

前のパソコンと、本製品の仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

「PC引越ナビ」で使用できるメディアは次のとおりです。

- CD-R
- CD-RW
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD+R
- DVD+RW
- DVD-RAM
- USBフラッシュメモリ

本製品で使用できるメディアについては、「2章 6-1 使えるメディアを確認しよう」で確認してください。
前のパソコンでどのメディアが使用できるかを確認し、移行に使用するメディアを選択し、必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なメディアは、あらかじめフォーマットしてください。
移行するファイルや設定内容に比べて、メディアの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のメディアを移行用に使用することをおすすめします。

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」で移行できる設定とデータは、次のものです。

● **Internet Explorerの設定**
・［お気に入り］フォルダの設定
・cookie
・RSSフィールド（Internet Explorer 7とInternet Explorer 7間の移行のみ）
・ホームページ（スタートページ）の設定
・ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定

● **Windows メールの設定**
初期状態で登録されているメインユーザの次のデータを移行できます。
・アドレス帳の内容
・メールデータ
・アカウント情報（メールアカウント、ニュースアカウント、ディレクトリサービスアカウント）

● **Microsoft Outlookの設定**
＊「Microsoft Outlook」はOffice搭載モデルにのみ付属およびインストールされています。
Officeが搭載されていないモデルの場合、以前にご使用されていたパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータを本製品に移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用の前に市販の「Microsoft Outlook」を本製品にインストールする必要があります。
・個人用フォルダに含まれるデータ
・電子メールアカウント設定（Exchange Server、POP3、IMAP、HTTP）
・その他の設定（個人アドレス帳、仕訳ルール（Outlook 2007では仕分けルール）、署名）

● **［ドキュメント］（Windows Vista以外では［マイドキュメント］）フォルダに保存されているファイル**
「PC引越ナビ」を起動したときのユーザ名の［ドキュメント（マイドキュメント）］を移行できます。

● **デスクトップ上のファイル**
「PC引越ナビ」を起動したときのユーザ名のデスクトップ上のファイルを移行できます。

● **任意のフォルダに含まれるファイル**
移行したいファイルを指定することができます。指定はフォルダ単位で行います。

メモ

- 移行できる設定やデータについて、詳しくは、「PC引越ナビ」の［詳細説明 引っ越し可能なデータ］画面で確認してください。
  ［PC引越ナビ　機能選択］画面で［PC引越ナビを初めて使う方は、こちらを選択してください。］をクリックすると、2ページ目に表示されます。
  知りたい項目のアイコンをクリックしてください。

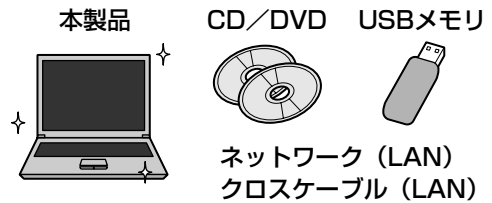
お願い　操作にあたって

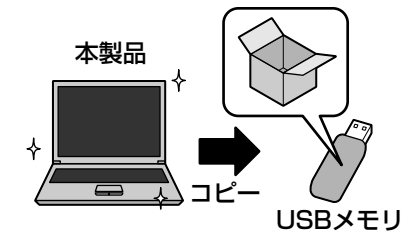
- あらかじめ、「付録 1-1 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

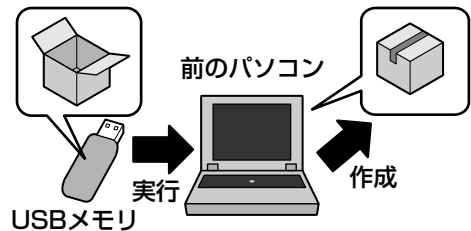
1 操作の流れ

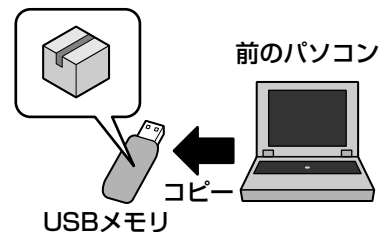
設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで詳細の操作は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
本製品と、前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

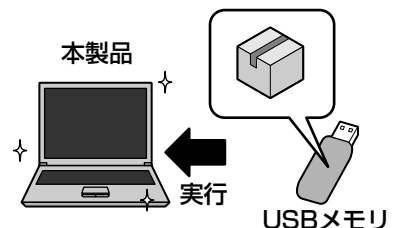
移行方法を決める

いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと本製品の仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。

「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。
移行方法をメディアにした場合は、メディアにコピーしてください。

「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。

「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。移行方法をメディアにした場合は、メディアにコピーしてください。移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。

「こん包ファイル」を開こんする

コピーした「こん包ファイル」を本製品で開き、コピーします。

2 起動方法

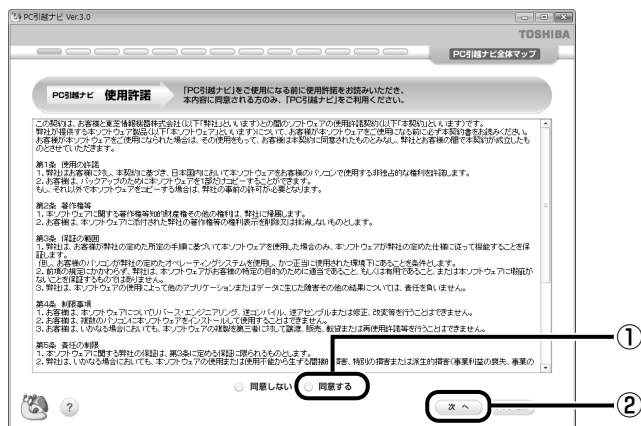
1 デスクトップ上の［PC引越ナビ］（ ）をダブルクリックする

「PC引越ナビ」が起動します。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［PC引越ナビ］をクリックして起動することもできます。

2 画面下の ? をクリックし、注意制限事項を確認する

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。
「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。
目次で［注意制限事項］をクリックし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

3 ［同意する］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。

注意事項が表示されます。内容を確認し、［OK］ボタンをクリックしてください。

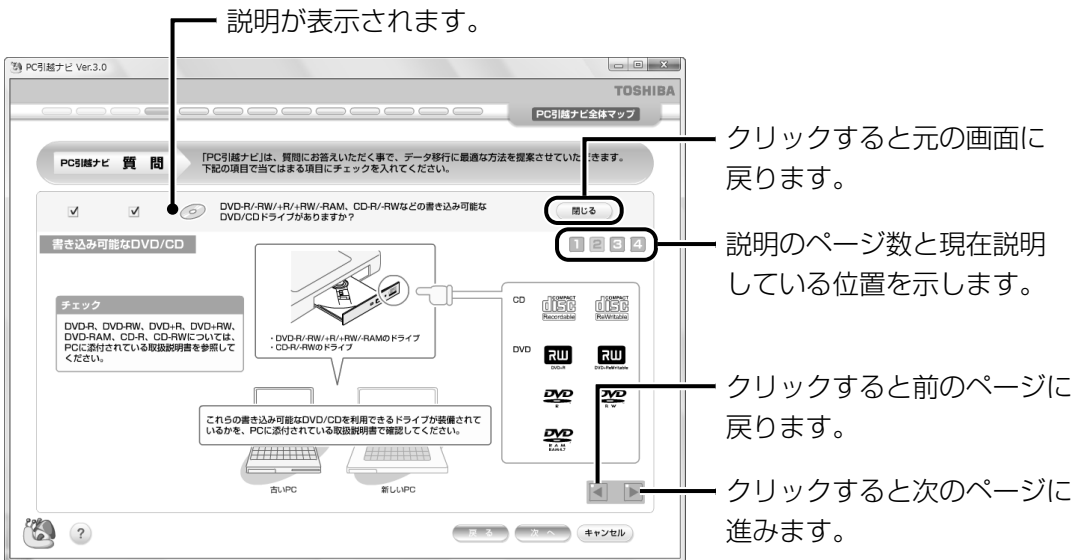
引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら、操作してください。

説明画面について

■操作に困ったとき

［説明］ボタン、または［詳細説明］ボタンをクリックすると、表示している画面の詳細説明が表示されます。

■説明画面の操作方法

画面の構造は、次のとおりです。

2 リカバリディスクを作る

本製品には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリ（再セットアップ）ツールが内蔵されています。「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクを作成し、あらかじめ、リカバリツールのバックアップをとっておくことをおすすめします。
何らかのトラブルでハードディスクからリカバリできない場合でも、リカバリディスクからリカバリをすることができます。
リカバリディスクがない状態で、ハードディスクからリカバリが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポートに相談してください。

リカバリディスクを作成できるメディア

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」では、次のメディアを使用できます。
作成するメディアの種類は、[TOSHIBA Recovery Disc Creator] 画面の [ディスク構成] で確認できます。

- DVD-R
- DVD-RW
- DVD+R
- DVD+RW

あらかじめバックアップ用のメディアを用意してください。[TOSHIBA Recovery Disc Creator] 画面で表示されるディスク番号が、必要な枚数です。複数枚使用する場合は、同じ規格のメディアで統一してください。

お願い メディアについて／メディアの使用推奨メーカ

＊ 使用できるメディアについては、「2章 6 CDやDVDを使う」を確認してください。
- 推奨するメーカのメディアを使用してください。
- 書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
- 規格に準拠したメディアを使用してください。

お願い リカバリディスクの作成にあたって

＊ リカバリディスクを作成するには、下記以外にもお願い事項があります。
「付録 1-9 CD／DVDにデータのバックアップをとる」のお願いを確認してください。
- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」ではDVD-RAMを使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクなどを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

リカバリツールのリカバリディスクを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［リカバリディスク作成ツール］をクリックする

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」が起動します。

（表示例）

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」で作成するディスクは、画面に表示される枚数分、メディアが必要になります。

2 リカバリディスクを作成する

1 ［タイトル］で作成するディスクをチェックする（ ）

チェックボックスにチェックがついているディスクを作成します。作成する必要のないディスクは、チェックをはずしてください。

2 ［作成］ボタンをクリックする

作成するリカバリディスクの確認とメディアのセットを求める画面が表示されます。

3 メディアをセットする

参照 CD／DVDのセット「2章 6-2 CD／DVDを使うとき（セット）」

4 ［OK］ボタンをクリックする

作成が開始され、［現在のディスク］に作成しているディスクの進捗状況が表示されます。
作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

作成が終了すると、ディスクトレイが自動的に開きます。
作成するディスクが複数枚ある場合は、メッセージに従ってメディアを入れ替えてください。

5 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

ディスク作成後は、作成したディスクの種類（リカバリディスクなど）と番号がわかるように、ディスクに目印をつけてください。例えば、「リカバリディスクXX（番号）」というように、レーベル面にフェルトペンなどで記載してください。リカバリをするとき、この番号通りにディスクを使用しないと、正しくリカバリされません。必ずディスク番号がわかるようにして保管してください。

6 ［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

［TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面が閉じ、ディスクの作成を終了します。

リカバリディスクからリカバリをする操作手順については、『セットアップガイド』を参照してください。

参照 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」のお問い合わせ先
『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■パスワードを設定している場合

● **ユーザパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
Password =
```

設定したユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。

メモ

- 購入時の設定では、パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
- 「指紋認証ユーティリティ」でPre-OS指紋認証機能を有効にし、指紋を登録すると、パスワードを設定している場合に表示される「Password=」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、Pre-OS指紋認証機能によってパスワードの認証が行われます。
  認証を5回失敗するか、一定時間が経過する、または BACKSPACE キーを押すと、「Password=」が表示されます。
  指紋認証について詳しくは、「6章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。
- 「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで、［ユーザポリシーの設定］画面の［ユーザパスワードの登録／変更を強制する］をチェックすると、次のように設定されます。
  - **ユーザパスワードが登録されていない場合**
    設定後の1回目の起動時に、「New Password=」と表示されます。
    ユーザパスワードの登録を行ってください。
  - **ユーザパスワードが登録されている場合**
    設定後の起動時に、「Password=」でユーザパスワードを初めて入力したときに、「New Password=」と表示されます。
    新しいユーザパスワードに変更してください。

  「Verify Password=」に「New Password=」で入力したパスワードをもう一度入力すると、ユーザパスワードが登録／変更されます。

  スーパーバイザパスワードについて詳しくは、「6章 3-2 スーパーバイザパスワード」を参照してください。

参照 パスワードについて「6章 3 パスワードセキュリティ」

● **HDDパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
Built-in HDD1 Password = *1
```

＊1 HDD2台搭載モデルでHDD2パスワードを登録している場合、「Built-in HDD2 Password =」と表示されます。

設定したHDDパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

メモ

- パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
- パスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、パスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。
  ただし、パスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、パスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。
- HDD2台搭載モデルで、HDD1とHDD2の両方にHDDパスワードを設定している場合、HDD1のHDDパスワード→HDD2のHDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、HDD1とHDD2のパスワードが同一の場合は、HDD1の認証終了後、HDD2の認証は省略されます。

参照 パスワードについて「6章 3 パスワードセキュリティ」

■メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『セットアップガイド』の「Q&A集」をご覧ください。

2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

■一時的に変更する

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 F12 キーを押しながら電源スイッチを押す

アイコンの下に選択カーソルが表示されます。

アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD1→HDD2*1→ドライブ→FDD→ネットワーク→USBフラッシュメモリ

＊1 HDD2台搭載モデルのみ

2 起動したいドライブを ← または → キーで選択し、 ENTER キーを押す

■あらかじめ設定しておく

「東芝HWセットアップ」の［OSの起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更「6章 1 東芝HWセットアップ」

2 パソコンの使用を中断する

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スリープまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

⚠警告

- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切ること**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを切った上で、必ずパソコンの電源を切ってください。
  スリープの状態では、プログラムされているタスクの処理を始めたり、作業中のデータを保存したりするためにパソコンのシステムが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、他のシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。

お願い　操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
  書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

中断したときは

- スリープ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スリープ中にメモリを取り付け／取りはずしすること
  ・スリープ中にバッテリをはずすこと
  また、スリープ中にバッテリ残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押していったん電源を切ったあと、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープ中や休止状態では、バッテリや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

1 スリープ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。
スリープはすばやく状態が再現されますが、バッテリを消耗します。作業を中断している間にバッテリの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープではそれまでの作業内容は消失します。ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリやバッテリパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。
スリープの実行方法は『セットアップガイド』を確認してください。

メモ

- FN＋F3キーを押して、スリープを実行することもできます。

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリやバッテリパックの取り付け／取りはずしなど）は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

1 休止状態の実行方法

1 ［スタート］ボタン（ ）をクリックし①、 にポインタをあわせる②

2 表示されたメニューから［休止状態］をクリックする

メニューが表示されない場合は、 をクリックしてください。

Power LEDが点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ

- FN＋F4キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作せずに、パソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じるときに、電源を切る（電源オフ）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ モバイルコンピュータ］をクリックする

3 ［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする

4 ［電源ボタンを押したときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。

5 ［変更の保存］ボタンをクリックする

パソコン本体の電源スイッチを押すと、選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

2 ディスプレイを閉じるときの動作の設定

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ モバイルコンピュータ］をクリックする

3 ［ コンピュータを閉じるときの動作の変更］をクリックする

4 ［カバーを閉じたときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］［シャットダウン］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。

5 ［変更の保存］ボタンをクリックする

ディスプレイを閉じると、設定した状態へ移行します。
［スリープ状態］［休止状態］に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

メモ

- ディスプレイを閉じることによって［スリープ状態］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

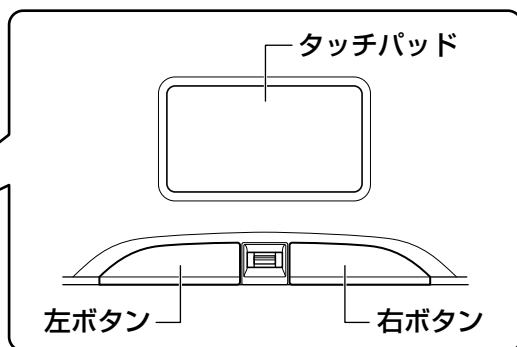
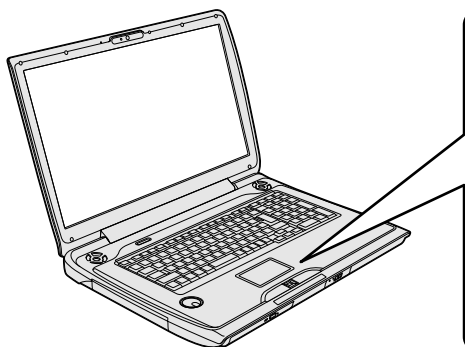
3 タッチパッド

1 タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインタ」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインタ」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインタ」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

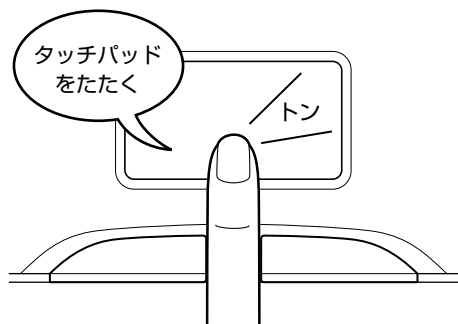
タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインタを動かし、パソコンを操作してみましょう。ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

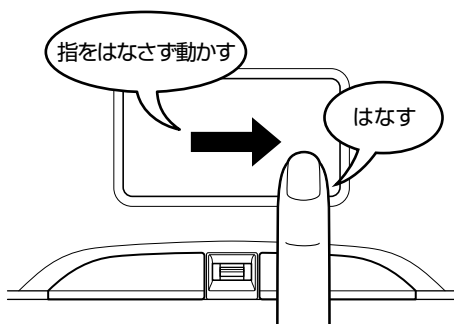
お願い タッチパッドの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 2 - タッチパッドの操作にあたって」を確認してください。

1 タッピングの方法

慣れてきたら、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

❑ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。

❑ ドラッグアンドドロップ

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。

2 タッチパッドの使用環境を設定する

タッチパッドやポインタの設定は、［マウスのプロパティ］で行います。

1 ［マウスのプロパティ］の起動方法

1 ［スタート］ボタン（　）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［　マウス］をクリックする

［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

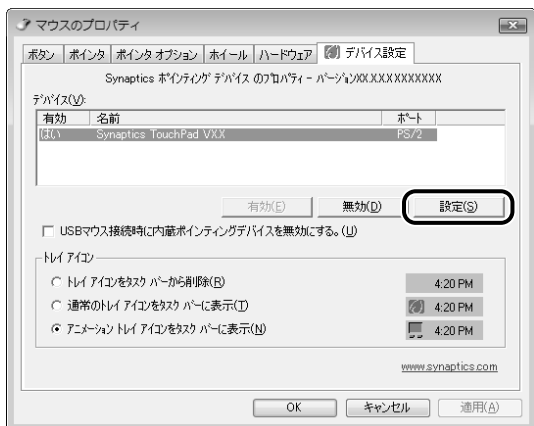
3 各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

各機能の設定については、以降の説明を参照してください。

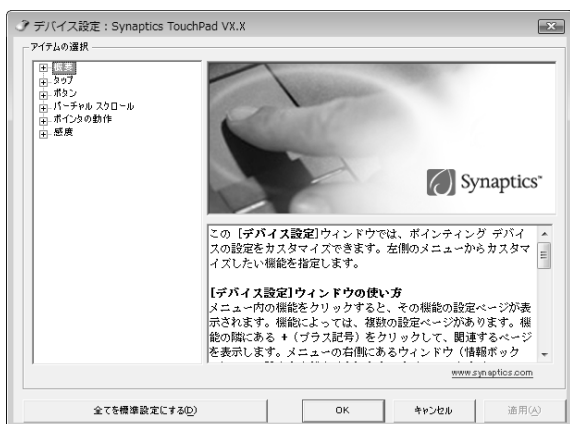
［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2 タッチパッドの設定方法

［マウスのプロパティ］では、タッチパッドやポインタなどの各種設定ができます。
タッチパッドの設定をするには、次のように操作してください。

1 ［デバイス設定］タブで［設定］ボタンをクリックする

［デバイス設定］画面が表示されます。

2 画面左側に表示されているメニューから、設定したい項目をクリックする

画面右側に、選択した項目の設定内容と、その説明が表示されます。説明をよく読んで各項目を設定してください。
項目名の左に（⊞）が表示されている場合、項目名をダブルクリックすると、さらに細かい設定項目が表示されます。

（表示例）

役立つ操作集

タッチパッドを無効／有効にするには

キー操作でタッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

FN＋F9キーを押すごとに、タッチパッドの無効／有効が切り替わります。

FN＋F9キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから手を離してから行ってください。

FN＋F9キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

USB対応マウス接続時に、自動的にタッチパッドを無効にする

USB対応のマウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［マウス］をクリックする
③ ［デバイス設定］タブで［USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。］をチェックする
④ ［OK］ボタンをクリックする

FN＋F9キーを押して設定する「タッチパッドオン／オフ機能」とは連動していません。

市販のUSB対応マウスをお使いの場合、マウスの種類によっては、本機能が動作しない場合があります。

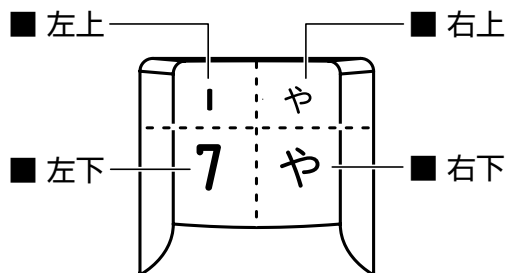
4 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

PRTSC(プリントスクリーン)
<SYSRQ(システムリクエスト)>キー
PAUSE(ポーズ)<BREAK(ブレーク)>キー
BACKSPACE
(バックスペース)キー
ENTER(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う
SCROLL ROCK(スクロールロック)キー
INS(インサート)キー
文字の入力モードを
挿入／上書きに切り替えるときなどに使う
DEL(デリート)キー
文字を削除するときなどに使う
HOME(ホーム)キー／PGUP(ページアップ)キー／END(エンド)キー／PGDN(ページダウン)キー
行やページの最初または最後にカーソルを移動したり、ページごとに表示を送ったりするときなどに使う
NUM LOCK(ナムロック)LED
テンキーの数字ロック状態を示す
NUM LOCK(ナムロック)キー
テンキーを数字入力状態にする
ENTER(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う
矢印キー
テンキー
数字の入力に使う
また、数字ロックを解除して矢印キーなどとして使う
SHIFT(シフト)キー
CTRL(コントロール)キー
アプリケーションキー
タッチパッド手前の右ボタンや、マウスの右ボタンを押すことと同じ動作を行いたいときに使う

2 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。文字キーに印刷されている2〜6種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。SHIFT キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
左下	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態でSHIFT キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（小さい「っ」）、拗音（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）などが入力できます。
右下	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

「TOSHIBA Flash Cards」について

「TOSHIBA Flash Cards」は、タッチパッドやマウス操作で簡単にホットキー機能の実行や東芝製のユーティリティを起動することができるユーティリティです。
デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択し、それぞれのカードに割り当てられている機能を設定・実行することができます。

■**操作方法**

1 FN **キーを押す**

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。

（表示例）

2 設定したい機能のカードをクリックする

カードとアイコンが表示されます。

3 表示されたアイコンのうち、設定したい項目にポインタを合わせる

ポインタを合わせると、アイコンが大きくなります。

4 設定したい項目のアイコンが大きい状態でクリックする

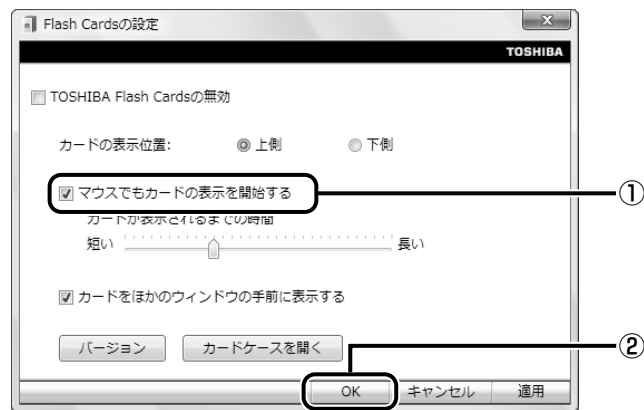
選択した項目に設定されます。

各カードに割り当てられている機能は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

■マウス操作でカードを表示させる

ポインタをデスクトップ上部に合わせることによって「TOSHIBA Flash Cards」が表示されるように設定することもできます。次の手順を行ってください。

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Flash Cardsの設定] をクリックする

2 [マウスでもカードの表示を開始する] をチェックし①、[OK] ボタンをクリックする②

■「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Flash Cards ヘルプ] をクリックする

キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

❑ FNキーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN＋ESC <スピーカのミュート>	FNキーを押したまま、ESCキーを押すたびに内蔵スピーカやヘッドホンの音量のミュート（消音）のオン／オフを切り替えます。
FN＋SPACE <本体液晶ディスプレイの解像度切替え>	FNキーを押したまま、SPACEキーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
FN＋F1 <インスタントセキュリティ機能>	コンピュータをワークステーションロック状態にします。 解除するには、ユーザ名をクリックしてください。 Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。
FN＋F2 <電源プランの設定>	FN＋F2キーを押すと、設定されている電源プランが表示されます。 FNキーを押したまま、F2キーを押すたびに電源プランが切り替わります。
FN＋F3 <スリープ機能の実行>	FNキーを押したまま、F3キーを押し直し、［スリープ］アイコンが大きい状態で指をはなすと、スリープ機能が実行されます。
FN＋F4 <休止状態の実行>	FNキーを押したまま、F4キーを押し直し、［休止状態］アイコンが大きい状態で指をはなすと、休止状態が実行されます。
FN＋F5 <表示装置の切替え>	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章 9-2 表示を切り替える」
FN＋F6 <本体液晶ディスプレイの輝度を下げる>	FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN＋F7 <本体液晶ディスプレイの輝度を上げる>	FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN＋F8 <無線LAN オン／オフ機能>	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、FNキーを押したまま、F8キーを押すたびに使用する無線LANのON／OFFを切り替えます。
FN＋F9 <タッチパッド オン／オフ機能>	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度FN＋F9キーを押します。 参照 詳細について 「本章 3-2-2-役立つ操作集 - タッチパッドを無効／有効にするには」

キー	内容
FN＋1 <縮小>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN＋2 <拡大>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

役立つ操作集

「TOSHIBA Smooth View」

「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大／縮小表示できるアプリケーションです。

- **起動方法**

  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Smooth View］をクリックする

- **ヘルプの起動方法**

  ①「TOSHIBA Smooth View」を起動後、画面右上の［ヘルプ］（ ）ボタンをクリックする
  ② 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

- **使用方法**

  ① FNキーを押したまま、1キーまたは2キーを押す
  画面やアイコンなどを縮小するときは1キー、拡大するときは2キーを押します。

❏ 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	CTRL＋SHIFT＋ESC	［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PRTSC	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT＋PRTSC	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

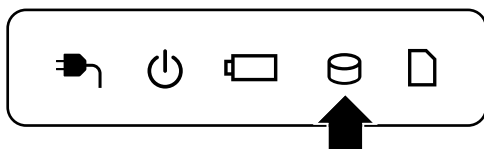
5 ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、モデルによって1台または2台が内蔵されています。HDD2台搭載モデルでは、ご購入時の状態で最初に起動するように設定されているハードディスクドライブをHDD1、2台目のハードディスクドライブをHDD2と呼びます。
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
USB接続型やeSATA接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-3 ハードディスクドライブについて」を確認してください。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクやドライブ、eSATA接続型のハードディスクなどとデータをやり取りしているときは、Disk LEDが点灯します。

USB接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LEDは点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

HDD2台搭載モデルでのリカバリとHDD消去

- HDD2台搭載モデルでリカバリをする場合、内蔵されているハードディスク2台のうち、購入時の状態で最初に起動するように設定されているハードディスク（HDD1）だけにシステムが復元されます。起動ドライブを2台目のハードディスク（HDD2）に変更している場合も、HDD1に対してシステムの復元が実行され、以降の起動ドライブもHDD1に戻ります。
［初期インストールソフトウェアの復元］画面でどのメニューを選択しても、1台目のハードディスク（HDD1）のCドライブに購入時と同じシステムが復元され、2台目のハードディスク（HDD2）に保存したデータや設定などは残ります。

参照 リカバリ『セットアップガイド 3章 買ったときの状態に戻すには』

- HDD2台搭載モデルでハードディスクの内容を消去した場合、ハードディスクの内容は2台とも消去されます。

参照 HDD消去『セットアップガイド 4章 3-2 ハードディスクの内容をすべて消去する』

6 CDやDVDを使う
ー ドライブ ー

本製品には、DVDスーパーマルチドライブが内蔵されています。
ドライブには次のマークが入っています。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R＊1、DVD+RW、DVD+R＊2、CD-RW、CD-Rの読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

＊1 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（Dual Layer DVD-R）を含みます。
＊2 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 使えるメディアを確認しよう

使用できるCD／DVDの詳細と書き込み速度については、「付録 2 メディアについて」と『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。
使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

○：使用できる　×：使用できない

	読み出し＊1	書き込み回数
CD-ROM	○	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD-ROM	○	×
DVD-R	○＊3	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD+R	○＊3	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能＊2

＊1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。
＊2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。
＊3 メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。

メモ

- メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RWにデータをコピーするには、本製品に添付されている「TOSHIBA Disc Creator」を使います。［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［Disc Creator］から起動します。

データをコピーする（書き込む）際に気をつけていただきたいことがあります。また、それぞれ対応しているメディアが異なります。以降の説明をよくお読みになってから書き込んでください。

Windows Vistaに用意されているバックアップ機能については、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

メモ

- DVD-RAMにデータを書き込む場合は、バックアップしたいファイルやフォルダを［DVD-RAMドライブ］にコピーしてください。
- CD-R、CD-RWなどにバックアップをとった場合、そのデータは書き込み不可になっている場合があります。この場合、バックアップをとったデータを使うときには、1度ハードディスクドライブなどにコピーしてからそのデータを右クリック→［プロパティ］で、［読み取り専用］のチェックをはずしてください。

お願い CD／DVDに書き込む前に、書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、「付録 1-9 CD／DVDにデータのバックアップをとる」を確認してください。

「TOSHIBA Disc Creator」で使用できるメディアは次のとおりです。

○：使用できる　×：使用できない

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○＊1・2	○＊1	○＊1・3	○＊1	×

＊1 DVD-Video、DVD-VR、DVD-Audio の作成はできません。また、DVDプレーヤなどで使用することはできません。

＊2 DVD-R DLを含みます。なお、DVD-R DLには追記ができません。

＊3 DVD+R DLを含みます。

DVDの再生について

本製品では、ドライブにDVDをセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD再生ソフトウェアとして、「TOSHIBA DVD PLAYER」が用意されています。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA DVD PLAYER］→［TOSHIBA DVD PLAYER］から起動します。

お願い DVDの再生にあたって

- あらかじめ、「付録 1-10 DVDの再生にあたって」を確認してください。

2 CD／DVDを使うとき（セット）

CD／DVDは、パソコン本体に装備されているドライブにセットして使用します。

お願い CD／DVDの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-4 CDやDVDについて」、「付録 2-1 使えるCDを確認しよう」、「付録 2-2 使えるDVDを確認しよう」を確認してください。

メモ　セットする前に確認しよう

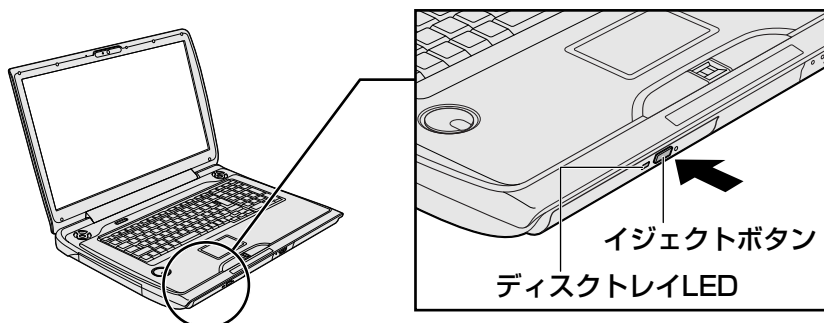
- 傷ついたり汚れのひどいCD／DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD／DVDの特性やCD／DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
- CD／DVDの種類によっては、取り出すときWindows Vistaが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。
  よく確認してからCD／DVDをセットしてください。
  このWindows Vistaの機能を無効にするには、次のように操作してください。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［コンピュータ］をクリックする
  ② ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
  ドライブのプロパティ画面が表示されます。
  ③［書き込み］タブで［共通の設定］ボタンをクリックする
  ④［共通の設定］画面で［ディスクの取り出し時のUDFセッションを自動的に閉じる］のチェックをはずし、［OK］ボタンをクリックする

ドライブに関する表示

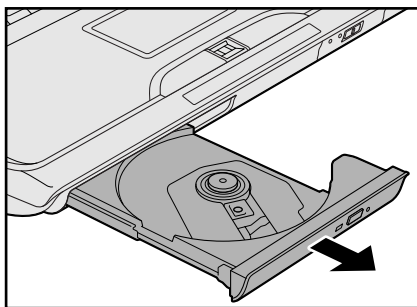
パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLEDが点灯します。

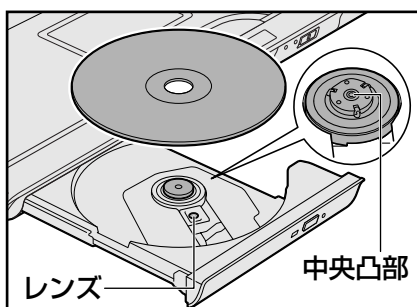
1 **パソコン本体の電源を入れる**

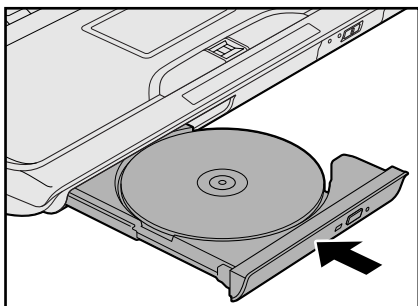
Windowsが起動します。

2 **イジェクトボタンを押す**

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

※ 購入したモデルによってイジェクトボタンの位置は異なります。

3 **ディスクトレイを引き出す**

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 **文字が書いてある面を上にして、CD／DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする**

「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

3 CD／DVDを使い終わったとき（取り出し）

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

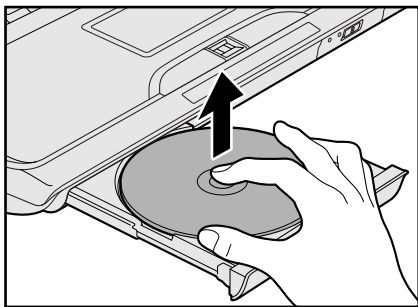
電源が入っていない場合は電源を入れてください。

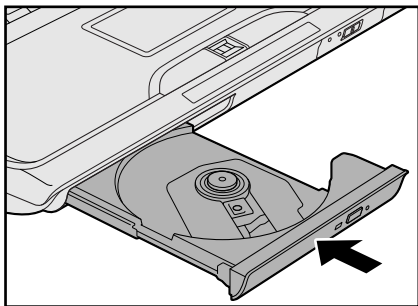
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD／DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す

CD／DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

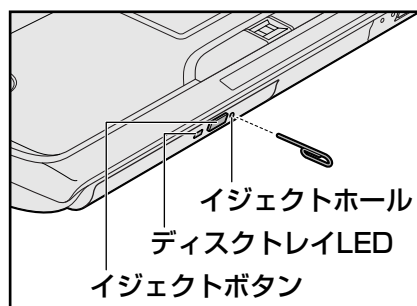
5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

CD／DVDが出てこない場合

電源を切っているとき、または休止状態のときは、イジェクトボタンを押してもCD／DVDは出てきません。電源を入れてからイジェクトボタンを押し、CD／DVDを取り出してください。
次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押したあとすぐにCD／DVDは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- スリープ状態のとき

上記以外でCD／DVDが出てこない場合は、次のように操作してください。

- **Windows動作中の場合**
  CD／DVDを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。

- **パソコン本体の電源が入らない場合**
  電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。

※ 搭載されているドライブによってイジェクトボタン、イジェクトホール、ディスクトレイLEDの位置は異なります。

4 DVD-RAMをフォーマットする

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。
フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。

お願い DVD-RAMのフォーマットについて

- あらかじめ、「付録 1 - 4 - DVD-RAMのフォーマットについて」を確認してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。
ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。
選択できるファイルシステムは「UDF2.5」「UDF2.01」「UDF2.0」「UDF1.5」「UDF1.02」「FAT32」です。

DVD-RAMのセクタの一部に不具合が生じた場合などに、通常のフォーマットとは違う「物理フォーマット」を行う場合があります。通常、購入したばかりなどのDVD-RAMに対しては、物理フォーマットを行う必要はありません。
物理フォーマットに対して、通常のフォーマットを「論理フォーマット」と呼びます。
なお、物理フォーマットを行ったあとには、論理フォーマットが必要となります。

1 論理フォーマット

通常のフォーマット（論理フォーマット）は、Windows上で実行できます。
フォーマット方法については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

2 物理フォーマット

物理フォーマットを行うには、非常に時間がかかります。

1 物理フォーマットするDVD-RAMをセットする

2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［DVD-RAMユーティリティ］をクリックする

［東芝DVD-RAMユーティリティ］画面が表示されます。

3 ［開始］ボタンをクリックする

以降、画面に表示されるメッセージに従ってください。
物理フォーマットをしたあとは、論理フォーマットが必要です。

7 画面を見やすく調整する
－ ディスプレイ －

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを内蔵しています。

- GXシリーズの場合　：1680×945ドット
- GXWシリーズの場合：1920×1080ドット

ドットは画素数を表します。
テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。

❑ 輝度の調整方法

FN＋F6：FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

FN＋F7：FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

8 サウンド

1 スピーカの音量を調整する

スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または音量ミキサから調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

メモ

- パソコンの起動時、または電源を切っているときは、ボリュームダイヤルをまわしても音量調節はできません。

1 パソコン本体のボリュームダイヤルをまわす

ボリュームダイヤルの位置は、『取扱説明書 1章 2 各部の名称』で確認してください。
ボリュームダイヤルを時計回り（右）に回すと音が大きくなります。
反時計回り（左）に回すと音が小さくなります。
音量を確認しながら、ボリュームダイヤルを回して調整してください。

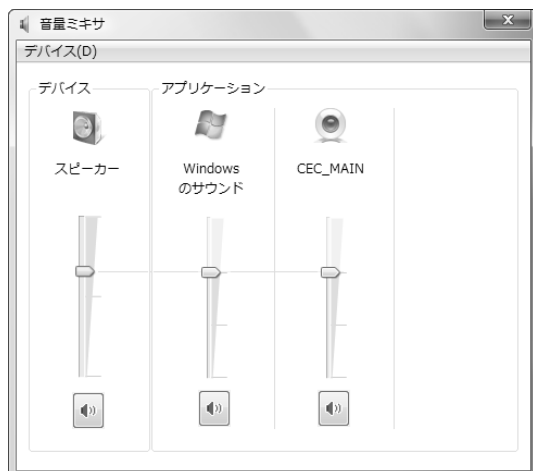
2 音量ミキサから調整する

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ システム音量の調整］をクリックする

［音量ミキサ］画面が表示されます。

3 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する

［ミュート］ボタン（ ）をクリックすると消音（ミュート）になります。

（表示例）

❏ 音楽／音声を再生するとき

音量ミキサの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカの音量を調整します。
Windowsのサウンド	Windowsのプログラムイベントで再生されるサウンド設定の音量を調整します。
CEC_MAIN	Webカメラの音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

3 Realtek HDオーディオマネージャについて

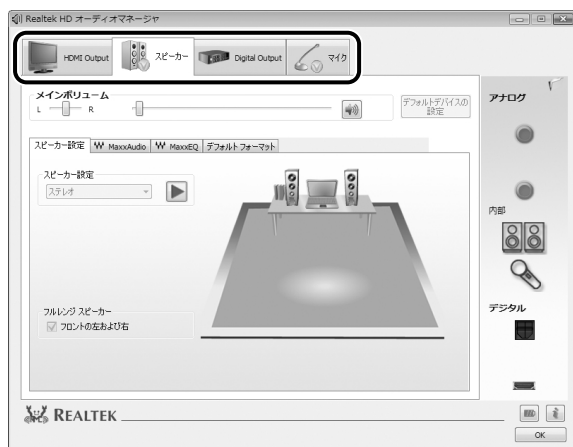
Realtek HD オーディオマネージャでは、オーディオ機能のいろいろな設定を変更することができます。

設定方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

3 設定したい機能のタブをクリックする

（表示例）

それぞれのタブでは、次の機能が設定できます。

■［HDMI Output］タブ

HDMIケーブル経由でHDMI出力端子に接続した外部機器から再生を行う場合に選択します。利用できる外部機器は、HDMI入力端子を備えたテレビやオーディオアンプです。

■［スピーカー］タブ

パソコンの内蔵スピーカやヘッドホンを使う場合に選択します。
また、オーディオケーブル経由でオーディオ出力端子に接続した外部機器からの再生や録音を行う場合に選択します。利用できる外部機器は、アナログオーディオ入力端子（ライン入力端子）を備えたオーディオ関連機器です。

■［Digital Output］タブ

光デジタルケーブル経由でS/PDIF出力端子に接続した外部機器から、再生を行う場合に選択します。利用できる外部機器は、光デジタル入力端子を備えたホームシアターシステムやオーディオアンプなどです。

■［マイク］タブ

コンピュータの内蔵マイクや、外部マイクをマイク入力端子に接続して、録音を行う場合に選択します。

■［ライン入力］タブ

オーディオ入力端子にオーディオケーブルを接続し、デバイス選択画面で［ライン入力］を選択した場合に表示されます。
オーディオケーブル経由でオーディオ入力端子に接続した外部機器から録音を行う場合の設定を行います。利用できる外部機器は、アナログオーディオ出力端子（ライン出力端子）を備えたオーディオ関連機器です。

4 各ボタンやタブをクリックし、オーディオ機能を調整する

手順 3 でクリックした機能のタブの中には、次のような設定ボタンやタブがあり、それらを使って詳細設定を変更することができます。

（表示例）

■［メインボリューム］

スライダーバーを左右にドラッグし、音量を調節します。ボタンをクリックすると、消音（ミュート）のオン／オフを切り替えます。

■［デフォルトデバイスの設定］ボタン

クリックすると、再生装置（デバイス）や録音装置（デバイス）として設定します。
初期状態では、再生装置（デバイス）として［スピーカー］、録音装置（デバイス）として［マイク］が設定されています。

■ ボタン
クリックすると、ハードウェアやソフトウェア、言語などの情報を確認することができます。

■ ボタン
クリックすると、オーディオ機能が使われていないときに、コンピュータのオーディオコントローラを省電力モードに移行させることができます。初期状態では、コンピュータがバッテリ駆動の場合に、オーディオの省電力が有効になるように設定されています。

■［スピーカー設定］タブ
手順 3 で［スピーカー］タブを選択した場合に、表示されます。▶ボタンをクリックすると、内蔵スピーカやヘッドホンから正しくサウンドが再生されるかを確認することができます。

■［MaxxAudio］タブ
音響補正技術「MaxxAudio」の設定を行います。

（表示例）

● ［MaxxAudio］ボタン（ ）
「MaxxAudio」の機能全体のオン／オフを行います。
● MaxxBass
低音を増幅する「MaxxBass」のオン／オフ、レベルの調節を行います。
● MaxxTreble
高音を増幅する「MaxxTreble」のオン／オフ、レベルの調節を行います。
● MaxxVolume
音量を聞きやすいレベルに自動調節する「MaxxVolume」のオン／オフを行います。
● ［設定のリセット］ボタン（Reset）
「MaxxAudio」のすべての機能を購入時の状態に戻します。
● ［内部スピーカー］など
［MaxxAudio］タブの画面右側は、「MaxxAudio」が補正している機器名を表示しています。

■［MaxxEQ］タブ

音響補正技術「MaxxAudio」に含まれる周波数補正機能「MaxxEQ」の設定を行います。MaxxEQは、音声の特定の周波数成分に対して増減を行うことで音色を変化させる機能で、一般的には「イコライザ」と呼ばれています。

なお、MaxxEQは本製品で最適な設定となるようにあらかじめ調整されています。設定変更の必要性を感じない場合は、購入時の設定のまま使っていただくことをおすすめします。

（表示例）

- ［MaxxAudio］ボタン（⏻）
  「MaxxAudio」の機能全体のオン／オフを行います。
- ［MaxxEQ］ボタン
  「MaxxEQ」のオン／オフを行います。
- ［Frequency］
  増減の起点となる周波数を指定します。調整可能範囲は、16Hz～22000Hzです。
- ［Gain］
  ［Frequency］で設定した周波数における増減量（単位：dB）を設定します。調節可能範囲は、-18dB～18dBです。
- ［Type］
  フィルタタイプを選択します。選択できるフィルタは、ベルフィルタ（Bell Filter）、ローパスフィルタ（Low Pass Filter）、ハイパスフィルタ（High Pass Filter）の3種類です。
  ・ベルフィルタ　：［Frequency］で設定した周波数を頂点とした山形のフィルタです。［Frequency］で設定した周波数がもっとも強く（または弱く）なります。2～4バンドはベルフィルタに固定されています。
  ・ローパスフィルタ：［Frequency］で指定した周波数以上を急激に下げます。よって、形状は［Frequency］付近が崖のようになります。効果としては高周波が聞こえなくなりますので、あまり［Frequency］の値を下げないことをおすすめします。
  ・ハイパスフィルタ：［Frequency］で指定した周波数以下を急激に下げます。効果としては低周波が聞こえなくなりますので、あまり［Frequency］の値を上げないことをおすすめします。

- [Q]
  [Q] はフィルタタイプが「ベルフィルタ」に設定されている場合、山形の形状を変更します。具体的には [Q] の値が小さくなると山の裾野が広がる形状になり、効果としては広範囲の周波数帯域に渡る補正が可能になります。[Q] の値が大きくなると山の裾野が狭まった鋭い角のような形状になり、効果としては特定周波数にしぼったピンポイントの増減が可能となります。民生機器での一般的なグラフィックイコライザのような効果が欲しい場合は [Q] を4.0以上に設定してください。調整可能範囲は、0.4〜6.0です。
- [設定のリセット] ボタン（Reset）
  「MaxxEQ」のすべての設定を購入時の状態に戻します。

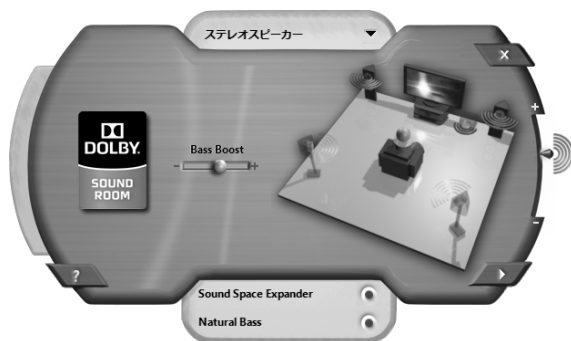
■[デフォルト フォーマット] タブ
サウンドのサンプリング周波数やビット深度を変更することができます。

5 [OK] ボタンをクリックする

4 Dolby Sound Roomについて

1 フロントオペレーションパネルのドルビーボタンに触れる

「Dolby Control Center」が表示されます。
[スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [Dolby Laboratories] → [Dolby Control Center] → [Dolby Control Center] をクリックして起動することもできます。

■Dolby Control Center
音響補正技術「Dolby Sound Room」の設定を行います。

（表示例）

- [Sound Space Expander] ボタン
  広がりのあるサラウンド効果を作り出す「Sound Space Expander」をオン／オフします。内蔵スピーカーが有効になっている場合に使えるようになります。

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

- ［Dolby Headphone］ボタン
  広がりのあるサラウンド音響をヘッドフォン環境で作り出す「Dolby Headphone」をオン／オフします。
- ［Natural Bass］ボタン
  低音を増幅する「Natural Bass」のオン／オフを行います。
- ［Bass Boost］スライダ
  Natural Bassのレベルを調節します。

9 いろいろなメディアカードを使う
－ ブリッジメディアスロット －

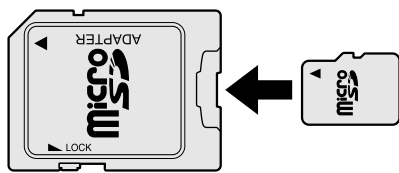
本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SDメモリカード（著作権保護技術対応）
- SDHCメモリカード（著作権保護技術対応）
- マルチメディアカード
- メモリースティック
- メモリースティックPRO
- xD-ピクチャーカード

次のメディアカードは、市販のアダプタを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ずアダプタを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモリカード（miniSDメモリカード用のアダプタを使用）
- microSDメモリカード（SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプタを使用）
- メモリースティックDuo／メモリースティックPRO Duo（メモリースティック デュオ アダプタを使用）

アダプタの装着や使用方法は、メディアカードの取扱説明書を確認してください。

例：microSDメモリカードの場合

それぞれのメディアカードで使用できる容量については『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 メディアカードを使う前に

お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 2-3 メディアカードを使う前に」を確認してください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メディアカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SDメモリカードとSDHCメモリカードは、再フォーマットをするときに「東芝SDメモリカードフォーマット」も使用できます。
「東芝SDメモリカードフォーマット」については、「本項-「東芝SDメモリカードフォーマット」を使ってフォーマットする」をご覧ください。

「東芝SDメモリカードフォーマット」を使ってフォーマットする

お願い フォーマットするにあたって

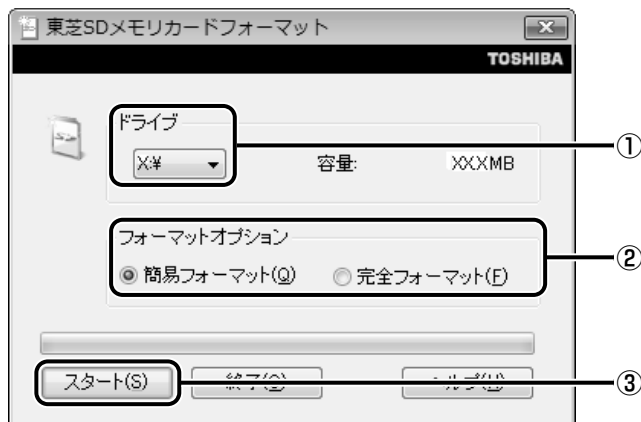
- あらかじめ、「付録 2-3-2- SDメモリカード／SDHCメモリカードのフォーマットについて」を確認してください。

1 **SDメモリカード／SDHCメモリカードをセットする**

2 **SDメモリカード／SDHCメモリカードを使用するアプリケーションを起動している場合は終了する**

3 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［SDメモリカードフォーマット］をクリックする**

［東芝SDメモリカードフォーマット］画面が表示されます。

4 **フォーマットしたいSDメモリカード／SDHCメモリカードがセットされているドライブを確認し①、必要に応じてフォーマットの種類を設定し②、［スタート］ボタンをクリックする③**

- **簡易フォーマット**
  ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。
- **完全フォーマット**
  SDメモリカード／SDHCメモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

5 **メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

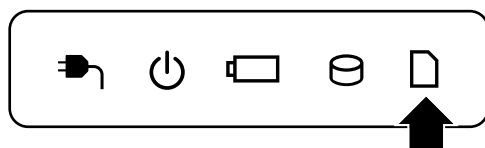
フォーマットが開始されます。
画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

6 **メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

これで、フォーマットは完了です。
フォーマットを終了する場合は、［終了］ボタンをクリックしてください。

2 メディアカードのセットと取り出し

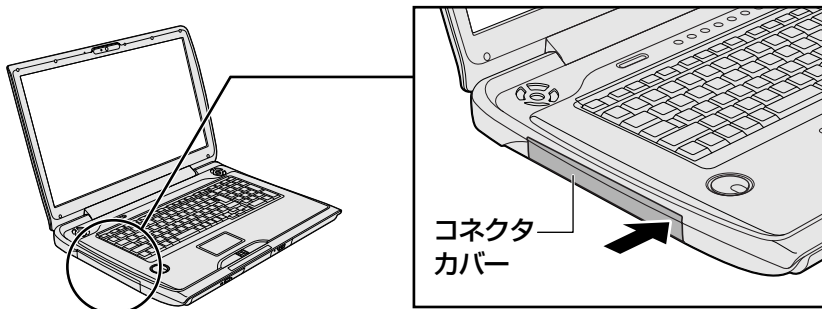
ブリッジメディアスロットに関する表示

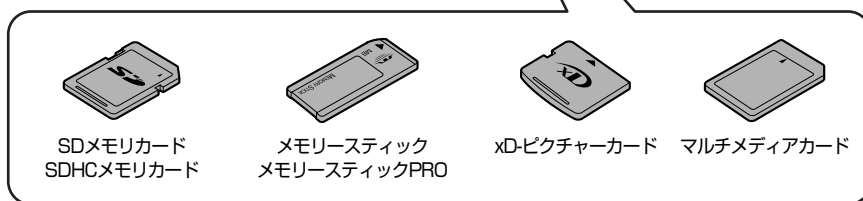
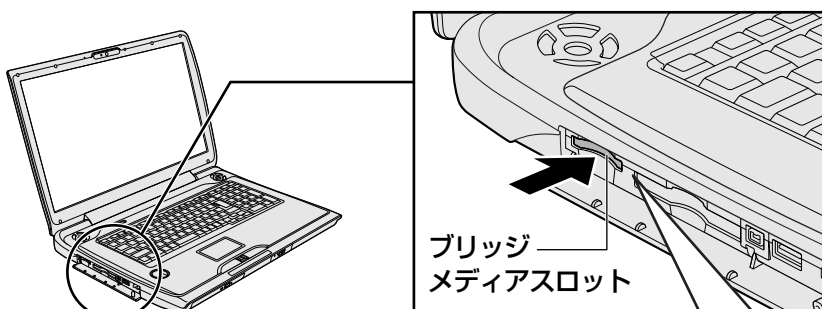
パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアカードとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディア LEDが点灯します。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 2-3-1 メディアカードの操作にあたって」を確認してください。

1 セットする

1 コネクタカバーの手前側を押す

コネクタカバーが開きます。

2 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護*1を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

＊1 SDメモリカード、メモリースティックの場合

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピュータ］をクリックする

［コンピュータ］画面が表示されます。

2 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

SDメモリカード	：セキュリティで保護された記録域デバイス
SDHCメモリカード	：セキュリティで保護された記録域デバイス
メモリースティック	：リムーバブルディスク、MemoryStick
メモリースティックPRO	：リムーバブルディスク、MemoryStick PRO
xD-ピクチャーカード	：リムーバブルディスク、xD-Picture Card
マルチメディアカード	：リムーバブルディスク、MMC

（表示例）

セットしたメディアの内容が表示されます。

メモ

- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、［フォルダを開いてファイルを表示］を選択してください。

（表示例）

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

①［スタート］ボタン（ ）→［コンピュータ］をクリックする

［コンピュータ］画面が表示されます。

②メディアカードのアイコンを右クリックし①、［安全に取り外す］をクリックする②

（表示例）

通知領域に［ハードウェアの取り外し］のメッセージが表示されます。

2 コネクタカバーを閉じている場合は、手前側を押して開ける

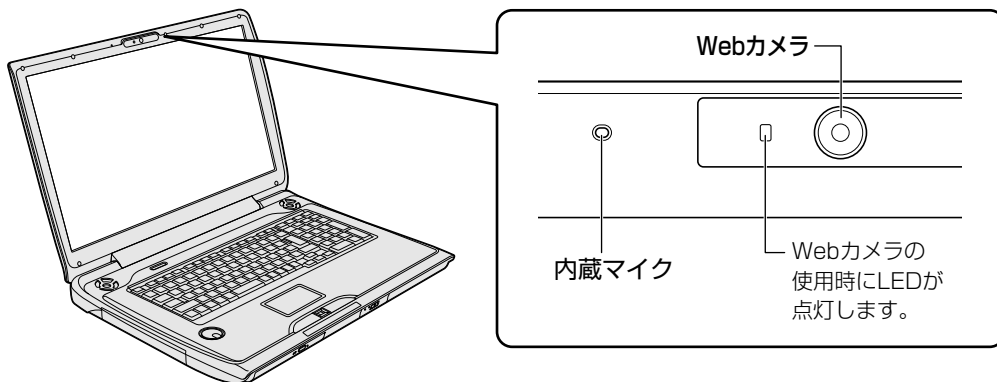
3 メディアカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

4 コネクタカバーを閉じる

カチッと音がするまで押してください。

10 Webカメラを使う

本製品には、「Webカメラ」が内蔵されています。
専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。

お願い Webカメラについて

- あらかじめ、「付録 **1**-**11** Webカメラについて」を確認してください。

1 Webカメラのアプリケーションについて

本製品には、Webカメラ用のアプリケーションが用意されています。

■起動方法

フロントオペレーションパネルのカメラボタンに触れてください。

通知領域に［カメラ補助アプリケーション］アイコン（ ）が表示され、Webカメラが映している映像の画面が表示されます。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［Camera Assistant Software］→［Camera Assistant Software］をクリックして起動することもできます。
この場合は、通知領域に［カメラ補助アプリケーション］アイコン（ ）が表示されます。

ポインタをデスクトップの左上の方へ移動すると、次の［Web Camera］メニューが表示されます。

［Web Camera］メニューは、通知領域の［カメラ補助アプリケーション］アイコン（ ）をダブルクリックすると、一時的に表示されます。

［カメラを始動する］ボタン（ ）をクリックすると、Webカメラが映している映像の画面が表示されます。

- ［録画］ボタン（ ）でスムーズに録画できない場合は、次の設定を行ってください。
  ①［Web Camera］メニューの［設定］ボタン（ ）をクリックする
  ②［ビデオ］タブの［解像度］で「640×480」以下の値を設定する
  ③［OK］ボタンをクリックする

  ［解像度］を「800×600」以上に設定すると、ハードディスクへ書き込むデータ量が多くなり、スムーズに録画されない場合があります。
- 薄暗い環境で撮影、録画するときは、次の手順で「ナイトモード」を設定すると、より明るく、ノイズを軽減して撮影することができます。
  ①［Web Camera］メニューの［プロパティ］ボタン（ ）をクリックする
  ②［オプション］タブの［ナイトモード］をチェックする
  ③［OK］ボタンをクリックする

  「ナイトモード」を設定して［録画］ボタン（ ）をクリックし、録画をする場合、1秒あたりのフレーム数が少なくなります。そのため、録画した映像ファイルの動きがスムーズに感じられない場合があります。

2 顔照合機能

Webカメラを使うアプリケーションに、「TOSHIBA Face Recognition」という顔照合機能があります。
顔照合とは、顔をWebカメラに映して登録し、登録した顔でWindowsのログオン時などに照合させることができる機能です。顔照合機能を使用することによってパスワードなどの入力を省略し、簡単にログオンすることが可能になります。
なお、本機能はセキュリティを目的としたWindowsパスワードの置き換えには適しません。
詳しくは付録の注意事項をお読みになり、ご利用ください。

お願い **顔照合機能の操作にあたって**

- あらかじめ、「付録 1-12 顔照合機能について」を確認してください。

起動方法

「TOSHIBA Face Recognition」を起動するには、次の手順を実行してください。

1 **[スタート]ボタン( )→[すべてのプログラム]→[TOSHIBA]→[ユーティリティ]→[TOSHIBA Face Recognition]をクリックする**

操作方法の詳細は、「TOSHIBA Face Recognition」のヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

「TOSHIBA Face Recognition」のヘルプを起動するには、次の手順を実行してください。

1 **[スタート]ボタン( )→[すべてのプログラム]→[TOSHIBA]→[ユーティリティ]→[TOSHIBA Face Recognition ヘルプ]をクリックする**

3章

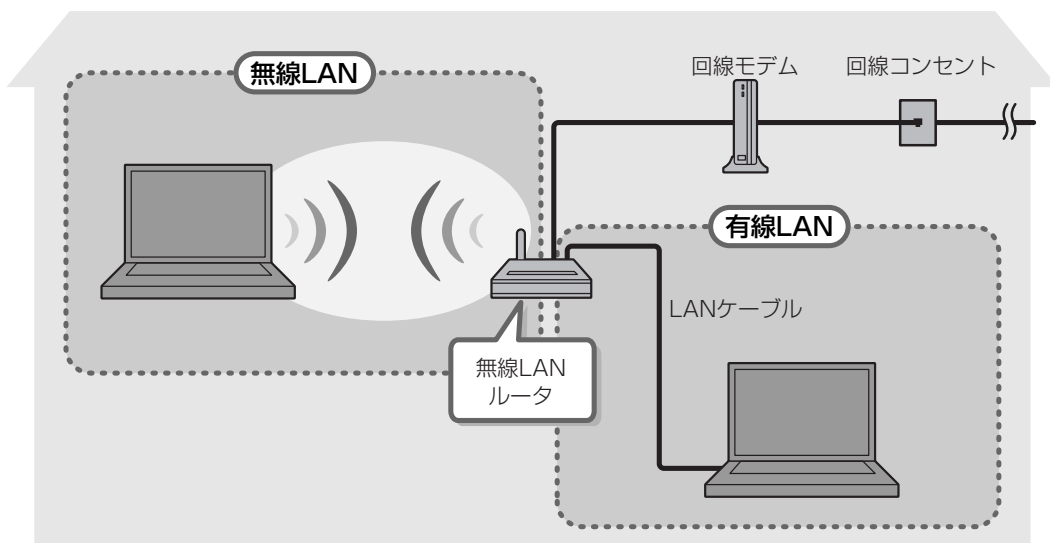
ネットワークの世界へ

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。
ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、ほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンタを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っているなど、複数のパソコンがあるときは、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。

（接続例）

■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本節 2 ブロードバンドで接続する」を参照してください。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータをLANシステムに接続できます。
無線LANルータや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンタなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。
ネットワークに接続している機器の設定は、それぞれの取扱説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

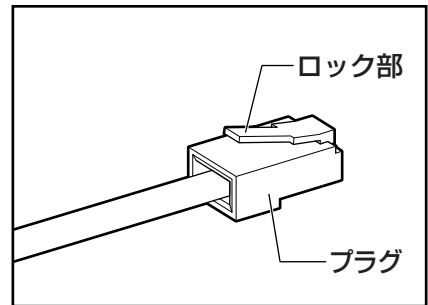
2 ブロードバンドで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN(ラン)機能が内蔵されています。
本製品のLANコネクタにブロードバンドの回線機器やブロードバンドルータなどをLANケーブルで接続することができます。
また、本製品のLAN機能は、Gigabit(ギガビット) Ethernet(イーサネット)（1000BASE-T）、Fast(ファスト) Ethernet(イーサネット)（100BASE-TX）、Ethernet(イーサネット)（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

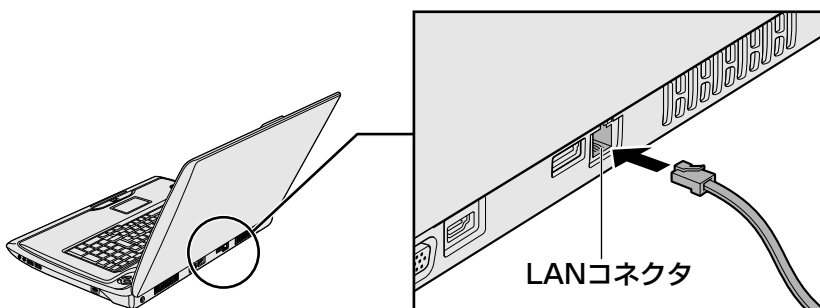
1 LANケーブルを接続する

お願い LANケーブルの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1-5 有線LANについて」を確認してください。

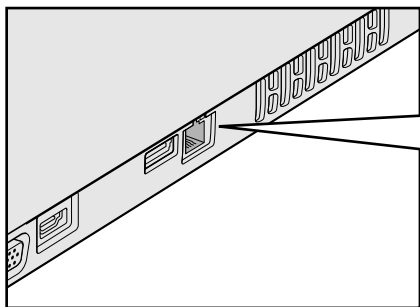
LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 **パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る**

2 **LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む**

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

3 **LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む**

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダにお問い合わせください。

動作状態を確認するには

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。

3 ワイヤレス（無線）LANを使う

1 無線LANを使ってみよう

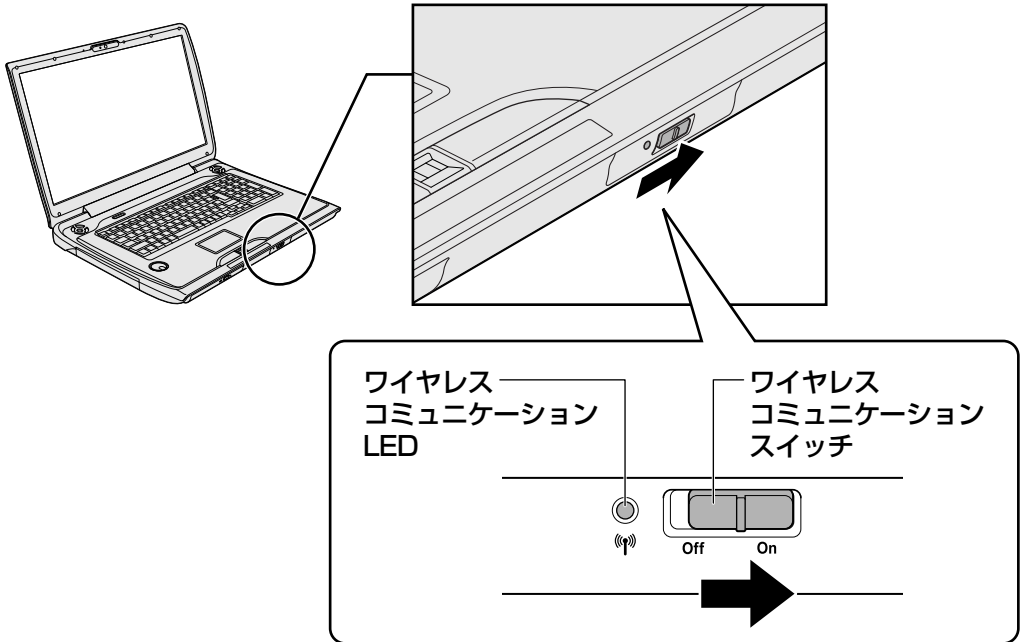
本製品の無線LANモジュールの仕様については、「付録 6-1 無線LANの概要」と『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

⚠ 警 告

- **パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ側にし、必ずパソコン本体の電源を切ること**
  ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
  また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い　無線LANのご使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1-6 無線LANについて」を確認してください。
  セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。

1 **本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする**

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

以降の無線の設定方法には、次の2種類があります。

- 「ConfigFree」を使う
- Windows標準機能を使う

「ConfigFree」を使って設定する場合は、「本項 1 - 役立つ操作集 - ConfigFree」を参照してください。
また、Windows標準機能を使って設定する場合は、[スタート] ボタン（ ）→ [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

役立つ操作集

ConfigFree
本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。
詳細については、「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。
「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

- **ファーストユーザーズガイドの起動方法**
  ① [スタート] ボタン ( ) → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ConfigFree] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックする
- **「ConfigFree」の起動方法**
  購入時の状態では、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン ( ) が表示されています。
  「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。
  ① [スタート] ボタン ( ) → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ConfigFree] → [ConfigFree トレイ] をクリックする

2 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 「付録 1 - 6 - 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意」

これらの問題に対応するためには、無線アクセスポイント、無線LANカードの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。
本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。
次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。
あらかじめアクセスポイントに接続した状態で、次のように設定してください。

参照 無線アクセスポイントのセキュリティ設定方法『無線アクセスポイントの取扱説明書』

1 [スタート] ボタン ( ) → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ネットワークの状態とタスクの表示] をクリック→画面左の [ネットワーク接続の管理] をクリックする

現在のネットワークへの接続状態が表示されます。

3 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコンを右クリックし、表示されたメニューから [状態] をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示されます。

4 ［ワイヤレスのプロパティ］ボタンをクリックする

5 ［セキュリティ］タブを選択し、セキュリティと暗号化の種類を選択してセキュリティを設定する

選択する項目、データ暗号化の方式、ネットワーク キーの詳細については、お使いになる無線アクセスポイントの取扱説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線アクセスポイントに接続できない場合があります。

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。
周辺機器には、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものと、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものがあります。

■内蔵方式のもの

- メモリ
- バッテリ

■外付け方式のもの

本製品のインタフェースにあった周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インタフェースなどの規格が異なることがあります。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的にあった機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカに確認してください。

参照 コネクタの仕様について「付録 5 各インタフェースの仕様」

お願い 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 1-7 周辺機器について」を確認してください。

本製品で使用できるおもな周辺機器は、次のとおりです。

- メモリ
  参照 メモリの増設『取扱説明書 1章 3 メモリの増設』
- USB対応機器
  参照 USB対応機器「本章 2 USB対応機器を使う」
- eSATA対応機器
  参照 eSATA対応機器「本章 3 eSATA対応機器を使う」
- i.LINK（IEEE1394）対応機器
  参照 i.LINK（IEEE1394）対応機器「本章 4 i.LINK（IEEE1394）対応機器を使う」
- マイクロホンとヘッドホン／光デジタル対応機器（MDレコーダ、MDコンポなど）／オーディオ機器
  参照 「本章 5 マイクロホンやヘッドホンを使う／本章 6 光デジタル対応機器の接続／本章 7 オーディオ機器の接続」
- ExpressCard
  参照 ExpressCard「本章 8 ExpressCardを使う」
- テレビ
  参照 テレビの接続「本章 9 テレビの接続」
- 外部ディスプレイ
  参照 外部ディスプレイの接続「本章 10 外部ディスプレイの接続」

2 USB対応機器を使う

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンタ
- USB対応スキャナ
- USBフラッシュメモリ　など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細については、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

⚠注 意

- **USBコネクタに金属製品が接触しないようにすること**
  金属製のヘアピンやクリップなどがUSBコネクタに触れると発熱の原因となります。特にパソコン本体をかばんなどに入れて持ち運ぶときには、金属製品と接触しないようにしてください。

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

USBの常時給電

（⚡）アイコンが付いているUSBコネクタでは、パソコン本体の電源がOFFの状態（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給することができます。
本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤなどの外部機器の使用および充電ができます。
＊USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、外部機器によっては本機能を使用できない場合があります。

お願い USBの常時給電について

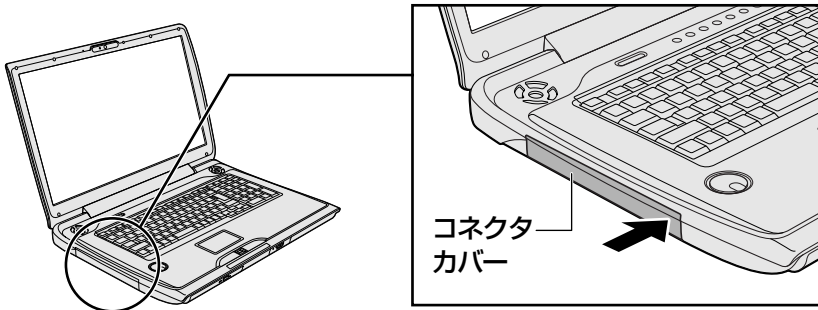
- あらかじめ、「付録 1 - 7 - USBの常時給電について」を確認してください。

1 取り付け

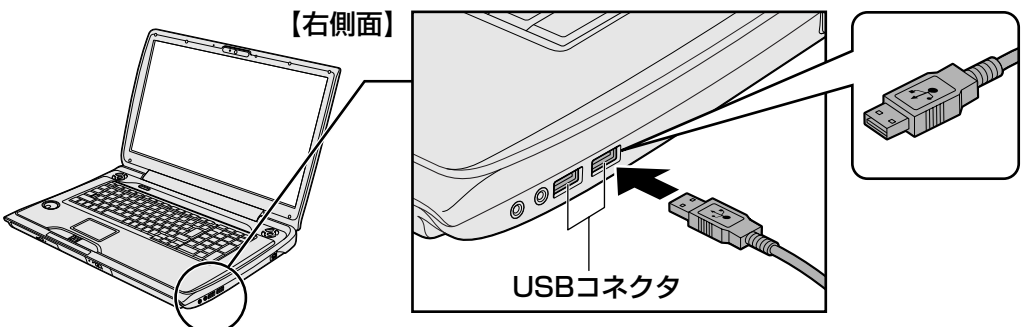
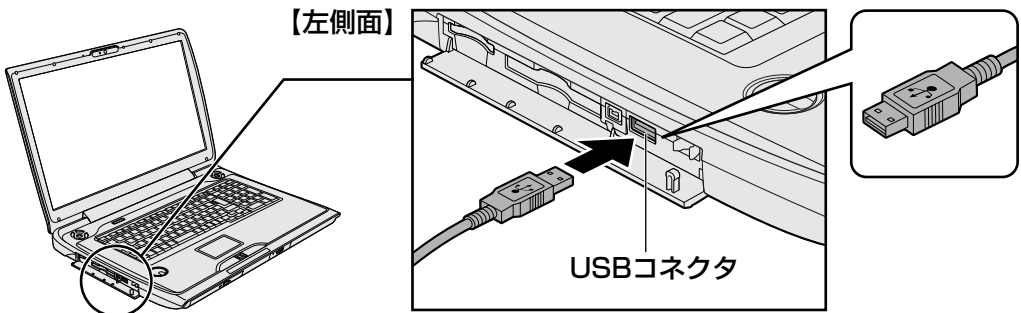
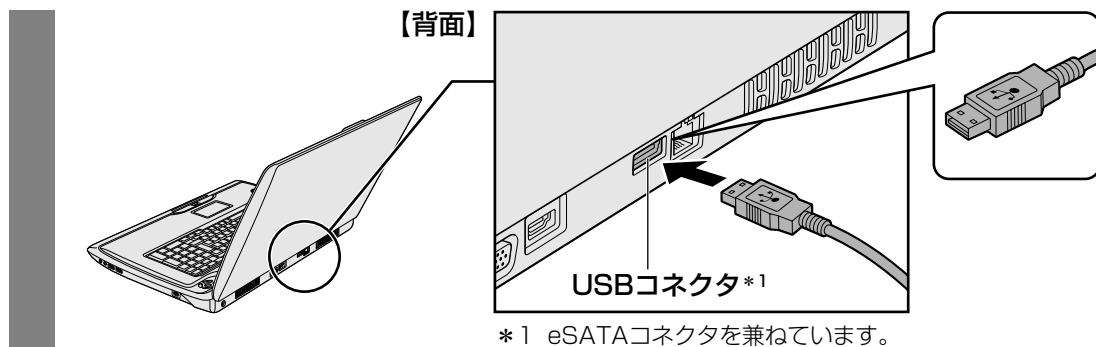
1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 左側面のUSBコネクタを使用する場合は、コネクタカバーの手前側を押す

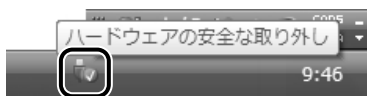
コネクタカバーが開きます。

3 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

＊1 eSATAコネクタを兼ねています。

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコン（ ）が表示されないUSB対応機器は、次の手順は必要ありません。手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから［XXXX（取りはずすUSB対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

3 左側面のUSBコネクタを使用していた場合は、コネクタカバーを閉じる

カチッと音がするまで押してください。

3 eSATA対応機器を使う

eSATA（イーエスエーティーエー）対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
eSATA対応機器には次のようなものがあります。

- eSATA対応ハードディスクドライブ　　など

eSATA対応機器の詳細については、『eSATA対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い eSATA対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - eSATA対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 取り付け

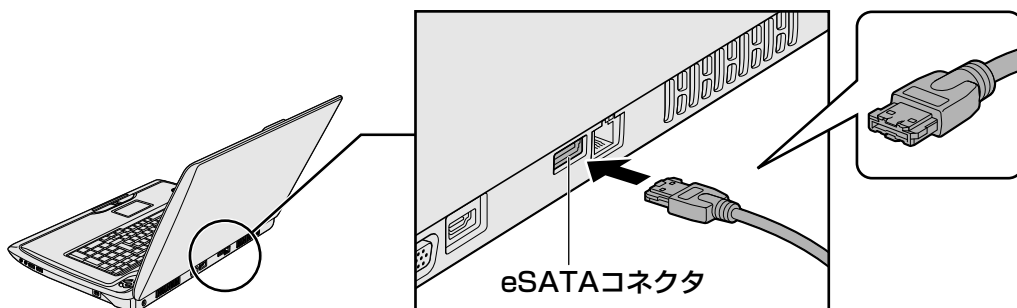
本製品のeSATAコネクタは、USBコネクタを兼ねています。

参照 「本章 2 USB対応機器を使う」

1 eSATAケーブルのプラグをeSATA対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。eSATA対応機器についての詳細は、『eSATA対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 eSATAケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のeSATAコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 取りはずし

1 eSATA対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にこのアイコン（ ）が表示されないeSATA対応機器は、次の手順は必要ありません。手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから［XXXX（取りはずすeSATA対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2 パソコン本体とeSATA対応機器に差し込んであるeSATAケーブルを抜く

4 i.LINK（IEEE1394）対応機器を使う

i.LINK（IEEE1394）コネクタ（i.LINKコネクタとよびます）に接続します。
i.LINK（IEEE1394）対応機器（i.LINK対応機器とよびます）には次のようなものがあります。

- i.LINK対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK対応ハードディスクドライブ
- i.LINK対応MOドライブ
- i.LINK対応プリンタ　　など

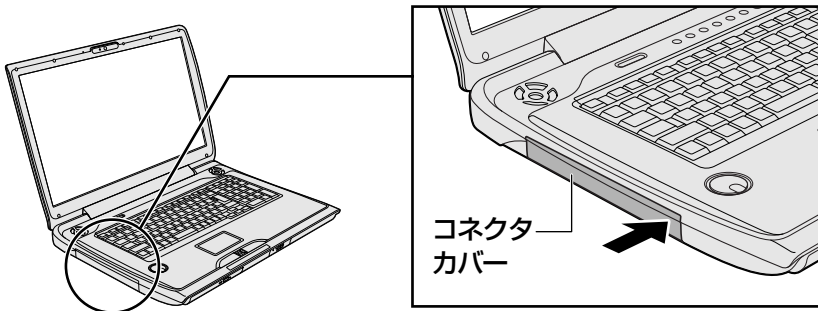
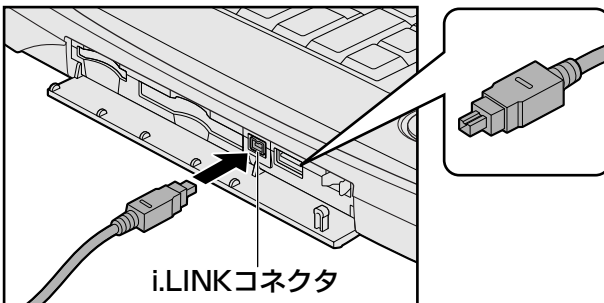
i.LINK対応機器の詳細については、『i.LINK対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - i.LINK（IEEE1394）対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 取り付け

1 コネクタカバーの手前側を押す

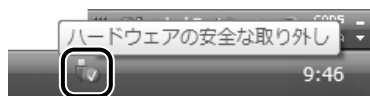
コネクタカバーが開きます。

2 ケーブルのプラグをパソコン本体のi.LINKコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

3 ケーブルのもう一方のプラグをi.LINK対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 i.LINK対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコン（ ）が表示されないi.LINK対応機器は、次の手順は必要ありません。手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから［XXXX（取りはずすi.LINK対応機器）を安全に取り外します］をクリックする

③「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2 パソコン本体とi.LINK対応機器に差し込んであるi.LINKケーブルを抜く

3 コネクタカバーを閉じる

カチッと音がするまで押してください。

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム（OS）がWindows Vistaでi.LINKコネクタがあるパソコン同士をi.LINK（IEEE1394）ケーブルで接続すると、2台で通信ができます。ネットワークの設定については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

1 コネクタカバーの手前側を押す

コネクタカバーが開きます。

2 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体のi.LINKコネクタに接続する

3 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器のi.LINKコネクタに接続する

5 マイクロホンやヘッドホンを使う

本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。
マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

1 マイクロホンを使う

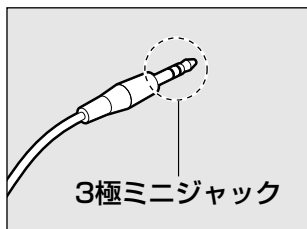
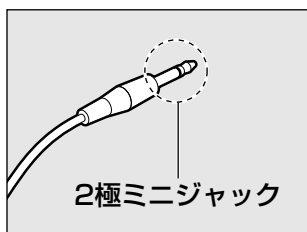
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品にはサウンド機能が内蔵されています。パソコン上で録音するときの音量を調整できます。

参照 サウンド機能について「2章 8 サウンド」

本製品のマイク入力端子は、オーディオ入力端子を兼ねています。

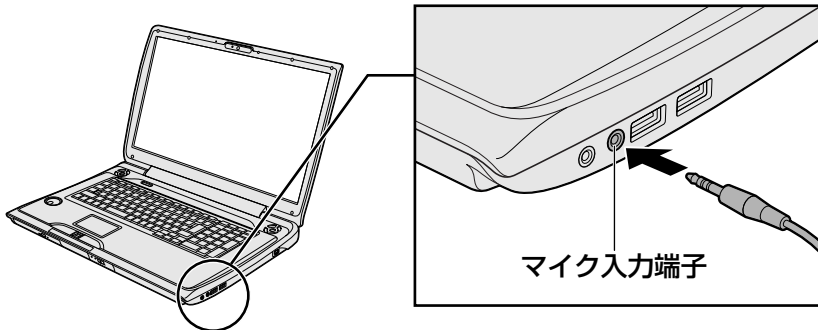
参照 「本章 7-1 オーディオ入力端子に接続する」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。

- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続する

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

デバイス選択画面と［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

2 デバイス選択画面で［マイク入力］をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面では、パソコン上で録音するときの音量を調整できます。引き続き設定を行う場合は、「本項 3 パソコン上で録音するときの音量調整」を確認してください。

3 パソコン上で録音するときの音量調整

接続したマイクから録音をする際の音量を調節できます。

設定方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

3 ［マイク］タブの［録音ボリューム］のつまみで音量を調節する

（表示例）

4 ［OK］ボタンをクリックする

4 取りはずし

1 マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜く

2 ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - ヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、またはWindowsの音量ミキサで調節してください。

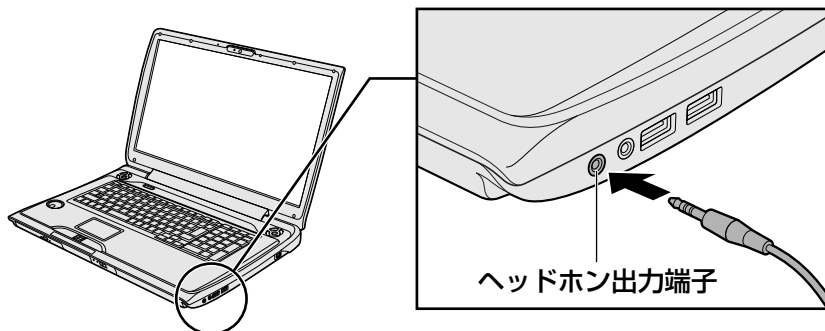
参照 音量の調節「2章 8 サウンド」

本製品のヘッドホン出力端子は、光デジタルオーディオ出力端子とオーディオ出力端子を兼ねています。

参照 「本章 6 光デジタル対応機器の接続」

参照 「本章 7 - 2 オーディオ出力端子に接続する」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

デバイス選択画面と［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

2 デバイス選択画面で［ヘッドフォン］をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面では、ヘッドホンを接続したときの音量などを調整することができます。

参照 操作方法「2章 8 - 1 - 3 Realtek HD オーディオマネージャについて」

2 取りはずし

1 ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜く

6 光デジタル対応機器*の接続

＊光デジタルオーディオ出力端子対応機器

次のような機器（光デジタル対応機器とよびます）を、光デジタルオーディオ出力端子に接続して使用できます。

- MDレコーダ
- MDコンポ
- AVアンプ
- ホームシアターシステム
- マルチチャンネルスピーカ　など

本製品の光デジタルオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子とオーディオ出力端子を兼ねています。

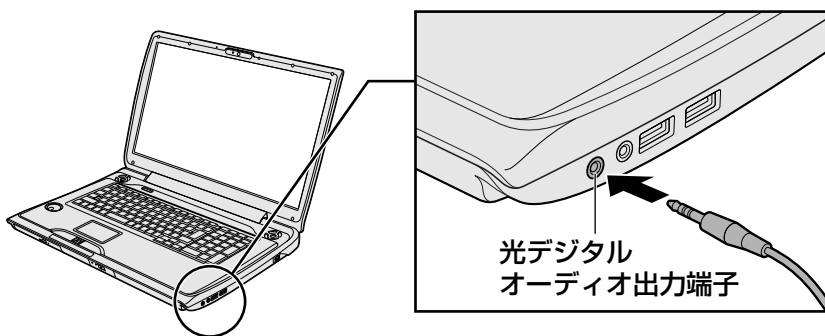
参照 「本章 5 - 2 ヘッドホンを使う」

参照 「本章 7 - 2 オーディオ出力端子に接続する」

お願い 光デジタル対応機器の接続にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - 光デジタル対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 光デジタル対応機器の取り付け

1 デジタルオーディオケーブルのプラグをパソコン本体の光デジタルオーディオ出力端子に差し込む

2 デジタルオーディオケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

接続した光デジタル対応機器から音声を出すには、設定変更が必要です。操作方法は、「本節 3 光デジタル対応機器への再生」を参照してください。

4章 周辺機器を使って機能を広げよう

2 光デジタル対応機器の取りはずし

1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

スピーカから音声を出すには、設定変更が必要です。操作方法は、「本節 3 光デジタル対応機器への再生」のメモを参照してください。

3 光デジタル対応機器への再生

光デジタルオーディオ出力端子に接続した光デジタル対応機器（AVアンプ、ホームシアターシステム、マルチチャンネルスピーカなど）から音声を出す方法について説明します。

設定方法

1 ［スタート］ボタン（）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ハードウェアとサウンド］→［Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

3 ［Digital Output］タブで、［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックする

（表示例）

4 ［OK］ボタンをクリックする

音声の出力先が、光デジタル対応機器に切り替わります。
この場合、パソコン本体のスピーカから音声は出力されません。

5 光デジタル対応機器の電源を入れる

6 光デジタル対応機器の音量などを調整する

光デジタル対応機器側で、S/PDIF入力からの音声をモニタ・再生できるように設定してください。詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。

7 再生したい音楽などをパソコンで再生する

コンテンツの種類（リニアPCM、Dolby Digitalなど）に対応した再生が行われます。

メモ

- 光デジタル対応機器をはずしたときは、手順 3 で［スピーカー］タブを選択し、［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックし、スピーカからの出力に戻してください。

7 オーディオ機器の接続

オーディオ入力端子とオーディオ出力端子に、それぞれオーディオ機器を接続できます。
市販のオーディオケーブルを使用してください。
オーディオケーブルのプラグは､直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください｡

お願い **オーディオ機器の接続にあたって**

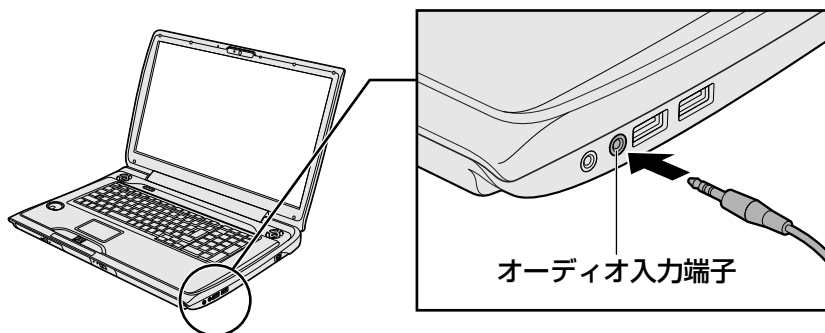
- あらかじめ、「付録 1 - 7 - オーディオ機器の操作にあたって」を確認してください。

1 オーディオ入力端子に接続する

本製品のオーディオ入力端子は、マイク入力端子を兼ねています。

参照 「本章 5 - 1 マイクロホンを使う」

1 オーディオ機器の取り付け

1 オーディオケーブルのプラグをパソコン本体のオーディオ入力端子に差し込む

デバイス選択画面と［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

2 デバイス選択画面で［ライン入力］をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

3 オーディオケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器のオーディオ出力端子に差し込む

接続したオーディオ機器から音声を入力するには、設定変更が必要です。手順 1 で表示された［Realtek HD オーディオマネージャ］画面で設定できます。操作方法は、「本項 3 オーディオ機器の音声を入力する」を参照してください。

2 オーディオ機器の取りはずし

1 オーディオ入力端子からオーディオケーブルのプラグを抜く

3 オーディオ機器の音声を入力する

オーディオ入力端子に接続した、オーディオ機器からパソコンに音声を入力する方法について説明します。
あらかじめ、接続したオーディオ機器の電源を入れておいてください。

設定方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

3 ［ライン入力］タブで、［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックする

（表示例）

4 ［OK］ボタンをクリックする

音声の入力元が、オーディオ機器に切り替わります。
この場合、マイク入力端子に接続したマイクロホンからの音声は入力されません。

5 パソコンに入力したい音声などをオーディオ機器で再生する

メモ

- 接続したオーディオ機器から録音をする際の音量を調節したい場合は、手順 3 で［録音ボリューム］のつまみで調節してください。
- 接続したオーディオ機器から再生をする際の音量を調節したい場合は、手順 3 で［再生ボリューム］のつまみで調節してください。

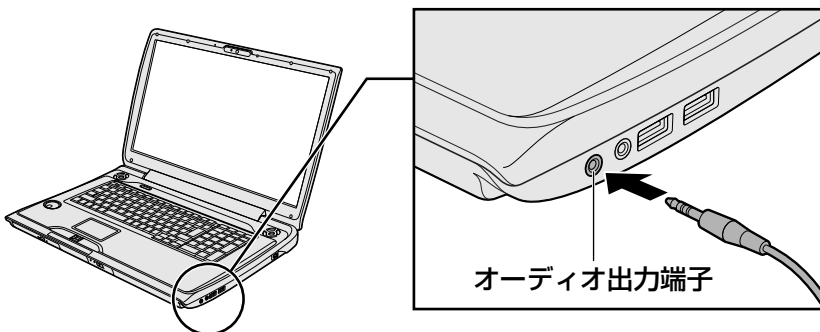
2 オーディオ出力端子に接続する

本製品のオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子と光デジタルオーディオ出力端子を兼ねています。

参照 「本章 5 - 2 ヘッドホンを使う」

参照 「本章 6 光デジタル対応機器の接続」

1 オーディオ機器の取り付け

1 オーディオケーブルのプラグをパソコン本体のオーディオ出力端子に差し込む

デバイス選択画面と［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

2 デバイス選択画面で［ライン出力］をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

3 オーディオケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器のオーディオ入力端子に差し込む

接続したオーディオ機器から音声を出力するには、設定変更が必要です。手順 1 で表示された［Realtek HD オーディオマネージャ］画面で設定できます。操作方法は、「本項 3 オーディオ機器の音声を出力する」を参照してください。

2 オーディオ機器の取りはずし

1 オーディオ出力端子からオーディオケーブルのプラグを抜く

3 オーディオ機器の音声を出力する

オーディオ出力端子に接続した、オーディオ機器から音声を出力する方法について説明します。あらかじめ、接続したオーディオ機器の電源を入れておいてください。

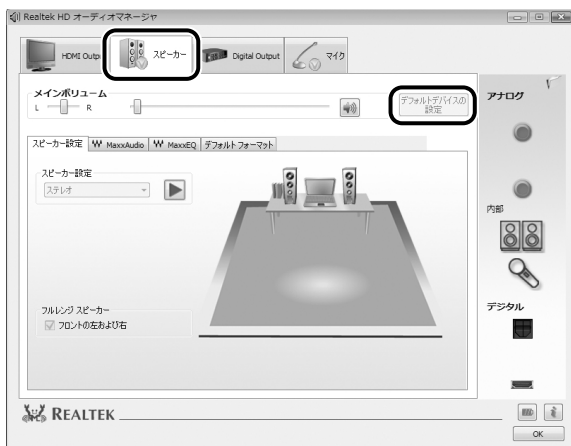
設定方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

3 ［スピーカー］タブで、［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックする

（表示例）

4 ［OK］ボタンをクリックする

音声の出力元が、オーディオ機器に切り替わります。
この場合、パソコン本体のスピーカから音声は出力されません。

5 オーディオ機器の音量などを調整する

オーディオ機器側での設定は、『オーディオ機器に付属の説明書』を確認してください。

6 再生したい音声などをパソコンで再生する

8 ExpressCardを使う

目的に合わせたExpressCardを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

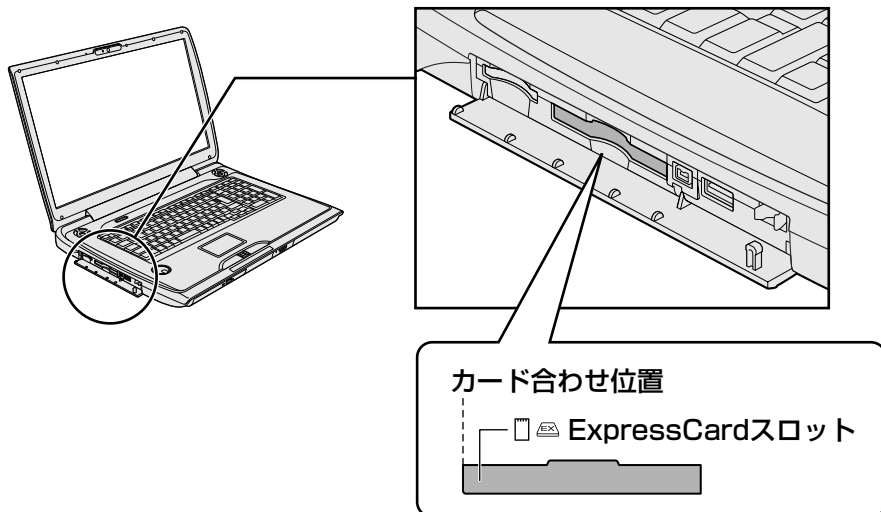
1 ExpressCardを使う前に

本製品は、ExpressCard Standard準拠のExpressCard/34、ExpressCard/54対応のカードを使用できます。
ExpressCardは基本的に電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用しているExpressCardがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『ExpressCardに付属の説明書』を確認してください。

操作にあたって

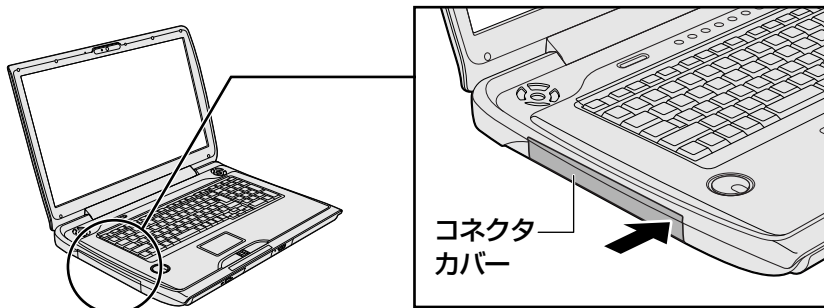
- あらかじめ、「付録 1 - 7 - ExpressCardの操作にあたって」を確認してください。

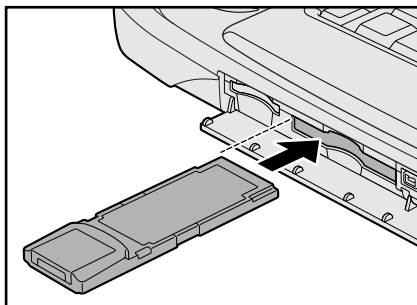
2 ExpressCardを使う

ExpressCardを使う場合、パソコン本体のExpressCardスロットにExpressCardを取り付けてください。
ExpressCardを取り付けるときは、ExpressCardスロットの左端にExpressCardの左端を合わせて挿入してください。

1 取り付け

1 ケーブルの接続が必要な場合は、ExpressCardにケーブルを付ける

2 コネクタカバーの手前側を押す

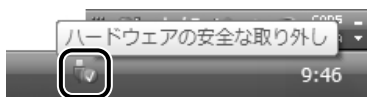
コネクタカバーが開きます。

3 ExpressCardの表裏を確認し、表を上にして挿入する

カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、ExpressCardを使用できない、またはExpressCardが壊れる場合があります。
カードを接続したあと、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

＊イラストは、ExpressCard/34対応のカードの例です。

2 取りはずし

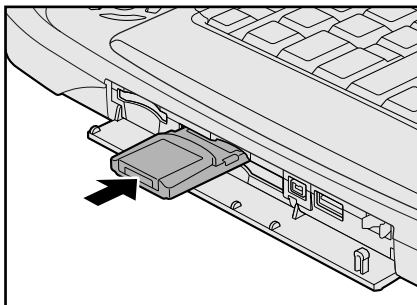
1 ExpressCardの使用を停止する

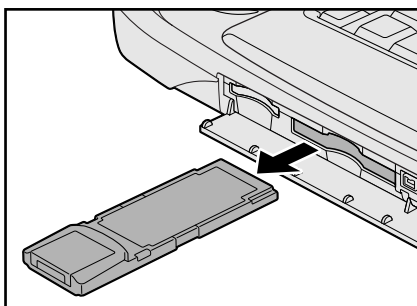
①通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコン（ ）が表示されないExpressCardは、次の手順は必要ありません。手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから［XXXX（取りはずすExpressCard）を安全に取り外します］をクリックする

③「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

2 カードを押す

カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、抜く

カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。熱くないことを確認してから行ってください。

4 コネクタカバーを閉じる

カチッと音がするまで押してください。

9 テレビの接続

本製品とテレビをHDMI（エイチディーエムアイ）ケーブルで接続すると、テレビ画面にWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。
HDMI出力端子は、音声もテレビに出力することができます。

■パソコン上で再生中のDVDを、テレビに表示する

「TOSHIBA DVD PLAYER」でのDVD再生など、パソコンで視聴／再生している映像を、ご家庭のテレビにも表示させることができます。

お願い　テレビ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

メモ

- 本製品のHDMI出力端子には、テレビの代わりに、DVI端子のある外部ディスプレイを接続して表示することもできます。市販のケーブルを使用して接続してください。詳しくは、「本章 10 外部ディスプレイの接続」を参照してください。

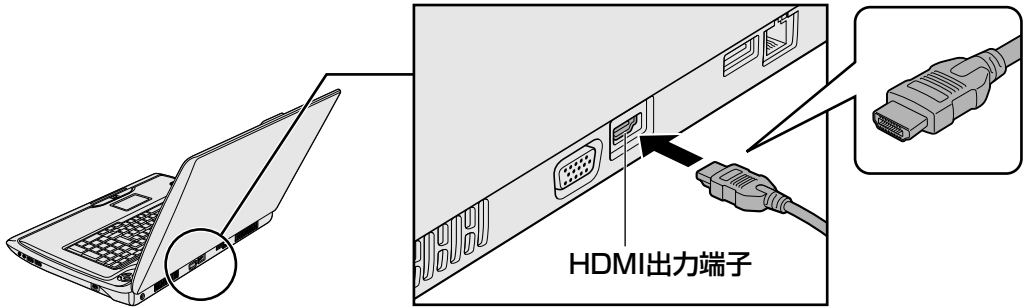
■接続の前に

テレビを接続するときは、『テレビに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。
HDMI入力端子があるテレビを接続できます。
接続するHDMIケーブルは、市販のものを使用してください。

メモ

- HDMI出力端子のテレビへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 表示を切り替える」を参照してください。
- RGBコネクタを備えたテレビへは、外部ディスプレイのようにRGBケーブルを使って表示することもできます。詳しくは、『テレビに付属の取扱説明書』と、「本章 10 外部ディスプレイの接続」を参照してください。

1 パソコンに接続する

1 HDMI ケーブルのプラグをパソコン本体のHDMI 出力端子に差し込む

2 HDMI ケーブルのもう一方のプラグをテレビのHDMI 入力端子に差し込む

❏ 音声の出力をパソコン本体のスピーカからテレビに切り替える

HDMI ケーブルで接続したテレビから音声が出ない場合は、設定変更が必要です。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする

［Realtek HD オーディオマネージャ］画面が表示されます。

3 ［HDMI Output］タブで［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックする

4 ［OK］ボタンをクリックする

この設定を行うと、パソコン本体から音声が出力されなくなります。テレビを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順 **3** で［スピーカー］タブの［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックしてください。

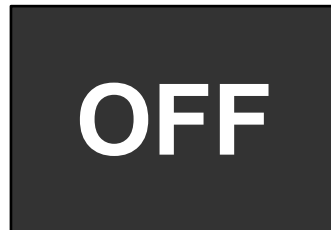
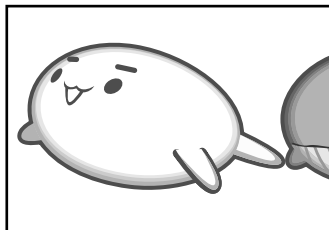
メモ

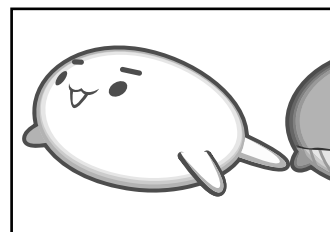
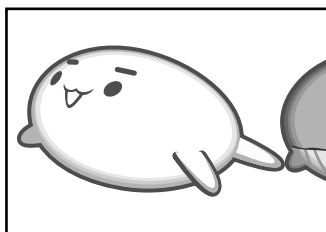
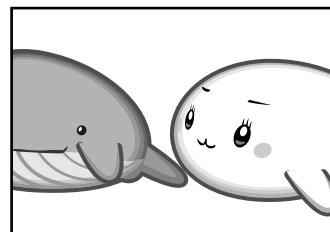
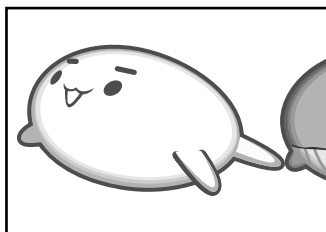
- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴ（ HDMI ）の表示があるケーブルをご使用ください。

2 表示を切り替える

テレビを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切替えを行うことで変更できます。

■本体液晶ディスプレイだけに表示／テレビだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

■本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- **クローン表示**
  2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

- **デュアルビュー（拡張）表示***
  2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。
  ＊デュアルビュー（拡張）表示は、「Extended Desktop」と表示されることがあります。

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

メモ

- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。

1 方法1－コントロールパネルで設定する

1 **［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする**

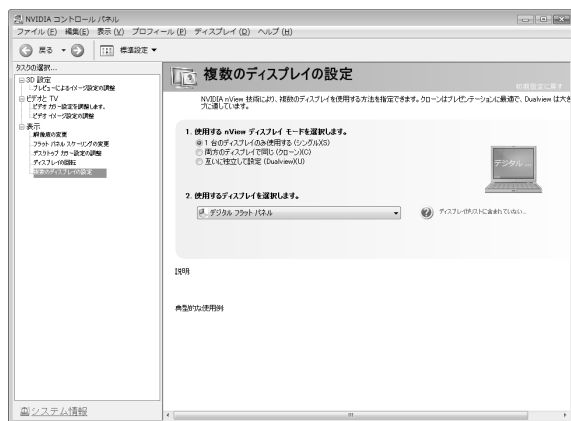
2 **［ その他のオプション］をクリックする**

3 **［ NVIDIAコントロールパネル］をクリックする**

初めてクリックしたときは、［NVIDIAコントロールパネル ビューの選択］画面が表示されます。
［標準設定］をチェックして、［OK］ボタンをクリックしてください。
［プレビューによるイメージ設定の調整］画面が表示されます。

4 **［タスクの選択］で［表示］の［複数のディスプレイの設定］をクリックする**

5 **［複数のディスプレイの設定］画面で表示装置を設定する**

「設定方法」に進んでください。

❏ 設定方法

■本体液晶ディスプレイ、またはテレビだけに表示

① ［1.使用するnViewディスプレイ モードを選択します。］で［1台のディスプレイのみ使用する（シングル）］を選択する

② ［2.使用するディスプレイを選択します。］で次の項目を選択する

・**本体液晶ディスプレイに表示する場合**
デジタル フラット パネル

・**HDMI 出力端子に接続してテレビに表示する場合**
HDMI＊1

＊1 実際には、接続しているHDMI 機器の名前が表示されます。

③ ［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［はい］ボタンをクリックしてください。

■本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

① [1.使用するnViewディスプレイ モードを選択します。] で次のいずれかを選択する

・[両方のディスプレイで同じ(クローン)]:クローン表示

・[互いに独立して設定(Dualview)]:デュアルビュー表示

② [2.使用するディスプレイを選択します。] でディスプレイを選択する

デジタル フラット パネル+HDMI *1またはHDMI *1+デジタル フラット パネル

＊1 実際には、接続しているHDMI機器の名前が表示されます。

③ [適用] ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して [はい] ボタンをクリックしてください。

必要に応じて、次の画面の設定を行います。

① [タスクの選択] で [ビデオとTV] の [信号またはHDフォーマットの変更] をクリックする

② [3.使用する信号フォーマットを選択します。] で選択する

接続した機器の信号フォーマットに合わせて、一覧から選択します。

国名/地域	信号形式	設定される画面モード
いずれでも	480p	720×480, True Color (32ビット)
	576p	720×576, True Color (32ビット)
	720p	1280×720, True Color (32ビット)
	1080i	1920×1080, True Color (32ビット)
	1080p	1920×1080, True Color (32ビット)

＊選択可能な信号形式は接続されているHDMI機器によって異なります。

＊手順②「[2.使用するディスプレイを選択します。] でディスプレイを選択する」で [デジタル フラット パネル+HDMI] のクローン表示を選択している場合は、この項目は表示されません。クローンモードで使用する信号フォーマットを変更する場合は [HDMI+デジタル フラット パネル] を選択してください。

③ [適用] ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して [はい] ボタンをクリックしてください。

2 方法2 − FN+F5キーを使う

● 表示装置をLCD(本体液晶ディスプレイ)に戻す方法

現在の表示装置がLCD(本体液晶ディスプレイ)以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN+F5キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、FN+F5キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置を選択する

FN キーを押したまま F5 キーを押すと、「TOSHIBA Flash Cards」の表示装置を選択する画面が表示されます。

＊画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）に表示した場合のカードです。

＊アイコンの一覧です。実際は接続している表示装置に応じて切替え可能なパターンのみ表示されます。

上のカードは現在の表示装置を、下のアイコンは切替え可能なパターンを示しています。
FN キーを押したまま F5 キーを押すたびに、大きなアイコンが移動します。表示する装置が大きなアイコンに変わったところで、FN キーをはなすと表示装置が切り替わります。

アイコンは、左から次の意味を表しています。

- LCD……本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD＋CRT……本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイにクローン表示
- CRT……外部ディスプレイだけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD＋HDMI……本体液晶ディスプレイとテレビにクローン表示
- HDMI……テレビだけに表示
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- HDMI＋CRT……テレビと外部ディスプレイにクローン表示
- LCD+CRT Extended Desktop……本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイにデュアルビュー（拡張）表示
  本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。
- LCD+HDMI Extended Desktop……本体液晶ディスプレイとテレビにデュアルビュー（拡張）表示
  本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。
- HDMI＋CRT Extended Desktop……テレビと外部ディスプレイにデュアルビュー（拡張）表示
  テレビがプライマリモニタになります。

メモ

- 表示装置をテレビに切り替えるときは、「方法1」で使用するディスプレイを正しく設定してください。

❑ デュアルビュー（拡張）表示でプライマリモニタを切り替える方法

現在の表示装置がデュアルビュー（Extended Desktop）表示に設定されている場合、プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコン（ ）が表示されます。

＊ 画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）とテレビに表示した場合のカードです。

（表示例）

FN キーを押したまま F5 キーを数回押しなおし、プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコンが大きい状態で、 FN キーをはなすと、表示装置が切り替わります。

3 レグザリンクを使う

1 レグザリンクとは

レグザリンクを使うと、東芝製液晶テレビ「レグザ＊1」に接続している外部機器を、レグザに付属のリモコンで操作することができます。

＊1 レグザリンクに対応しているレグザのみ

メモ

- レグザリンクについては、『レグザに付属の取扱説明書』と「付録 1 - 13 レグザリンクについて」をよくお読みください。
- レグザリンクに対応している機種の最新情報は、次のホームページで確認してください。
  URL：http://www.toshiba.co.jp/digital/regzalink/

本製品で使用できる機能について

レグザが対応している外部機器との接続方法は、HDMI、ネットワーク（LAN)、USBの3種類あります。

参照 対応している外部機器『レグザに付属の取扱説明書』

本製品では、HDMIケーブルを使った接続によるレグザリンク（HDMI連動）により、次のアプリケーションをレグザに付属のリモコンで操作して、映像を再生することができます。

- TOSHIBA DVD PLAYER
- Windows Media Center

各アプリケーションの操作方法については、本書の説明や各ヘルプを参照してください。

レグザのリモコンの操作方法については、『レグザに付属の取扱説明書』を参照してください。ここでは、レグザリンクを使った操作方法を紹介します。

2 レグザリンクの操作方法

レグザリンクを使うには、次のようにパソコン本体とレグザを設定してください。

①パソコン本体とレグザリンクに対応したレグザをHDMI ケーブルで接続する

参照 HDMIケーブルでの接続方法について
『レグザに付属の取扱説明書』「本節 1 パソコンに接続する」

②接続したレグザの主電源を入れる

接続したレグザの主電源を切っていると、レグザリンクが使えません。
必ず、レグザの主電源を入れてください。

③パソコン本体の電源を入れる

④デスクトップ上の［HDMI出力］アイコン（HDMI出力）をダブルクリックする

レグザの電源がオンになり、パソコンのデスクトップ画面がテレビに表示されます。

すでに「TOSHIBA Flash Cards」などで表示装置を「HDMI」に設定している場合は、手順④の操作を行うと、本体液晶ディスプレイにだけ表示する設定に戻ります。再度、デスクトップ上の［HDMI出力］アイコン（HDMI出力）をダブルクリックするか、FN＋F5キーを押して、表示装置を切り替えてください。

4 パソコンから取りはずす

1 パソコン本体とテレビに差し込んであるケーブルを抜く

■アプリケーションの利用に関する注意事項

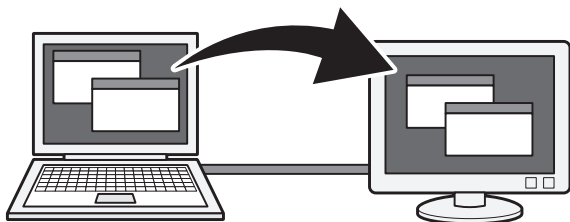
「TOSHIBA DVD PLAYER」で使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。
起動中は、表示装置を切り替えることができません。

メモ

- HDMI出力端子からテレビをはずしたときに、パソコン本体から音声が出力されない場合は、パソコン本体からの音声出力に切り替えてください。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
  ②［ハードウェアとサウンド］→［Realtek HD オーディオマネージャ］をクリックする
  ③［スピーカー］タブで［デフォルトデバイスの設定］ボタンをクリックする
  ④［OK］ボタンをクリックする
- HDMI接続で、テレビに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔を空けてください。

10 外部ディスプレイの接続

本製品の次のコネクタと外部ディスプレイをケーブルで接続すると、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

● HDMI（エイチディーエムアイ） 出力端子
● RGB（アールジービー）コネクタ

お願い 外部ディスプレイ接続の操作にあたって

● あらかじめ、「付録 1 - 7 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

■接続の前に

外部ディスプレイを接続するときは、『外部ディスプレイに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。

● **HDMI 出力端子で接続する場合**
DVI 端子がある外部ディスプレイを接続できます。
市販のHDMI←→DVI変換ケーブルをご使用ください。
DVI 端子に接続した場合、音声を出力することはできません。また、アプリケーションによっては、表示できない場合があります。

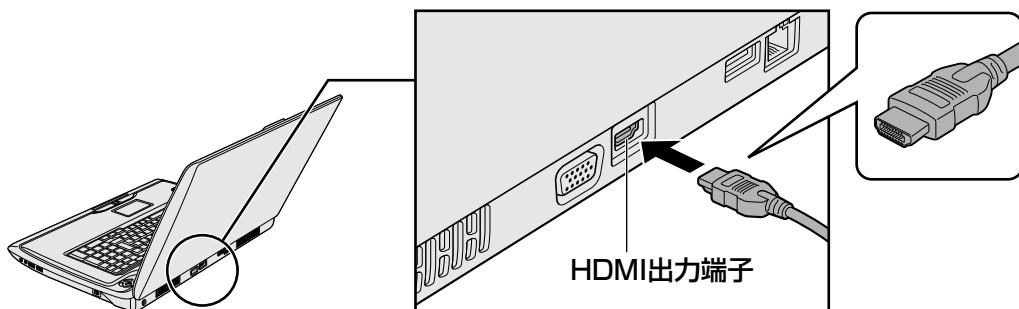
● **RGBコネクタで接続する場合**
RGB入力端子がある外部ディスプレイを接続できます。

メモ

● 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。
● 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。
● 著作権保護された映像などを外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応した外部ディスプレイを接続してください。

1 パソコンに接続する

HDMI出力端子に接続する

1 HDMI ケーブルのプラグをパソコン本体のHDMI 出力端子に差し込む

2 HDMI ケーブルのもう一方のプラグを外部ディスプレイのDVI 端子に差し込む

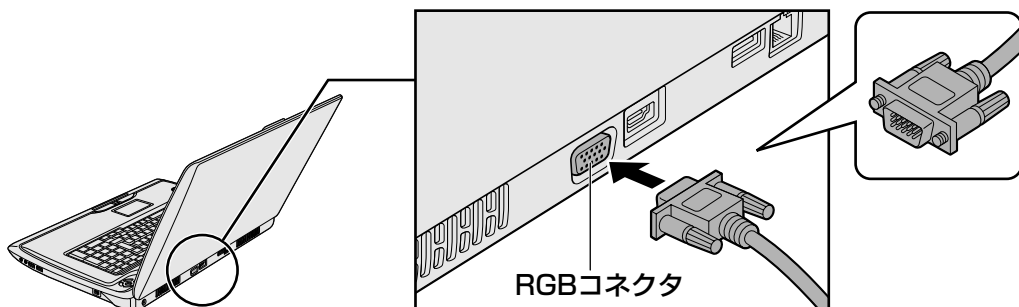
メモ

- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴ（HDMI）の表示があるケーブルをご使用ください。

RGBコネクタに接続する

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

本製品のRGBコネクタには固定用のネジ穴はありませんが、プラグに固定用のネジが付いているタイプの外部ディスプレイケーブルも使用できます。

2 外部ディスプレイの電源を入れる

3 パソコン本体の電源を入れる

上の手順で電源を入れると、パソコン本体は自動的に外部ディスプレイを認識します。

2 パソコンから取りはずす

HDMI出力端子から取りはずす

1 HDMI出力端子からケーブルを抜く

メモ

- HDMI接続で、テレビに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

RGBコネクタから取りはずす

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で取りはずしてください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 電源の切りかた『セットアップガイド』

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGBコネクタからケーブルを抜く

3 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
  - ・クローン表示　・デュアルビュー（拡張）
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

表示方法は、テレビに表示する場合の説明を参考にしてください。

参照 表示方法について「本章 9-2 表示を切り替える」

「電源オプション」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

切替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法1」や「方法2」を参考にしてください。「方法1」を参考にする場合は、［複数のディスプレイの設定］画面で接続している外部ディスプレイの名前を選択してください。

参照 表示方法について「本章 9-2 表示を切り替える」

メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定にあった色数／解像度で表示されます。

4 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

5章

バッテリ駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認、消費電力を減らす設定について説明しています。

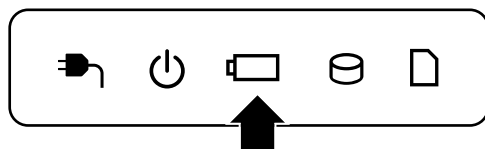
1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。
バッテリを充電して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを充電してから使用してください。
バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。
バッテリパックを指定する方法・環境以外の方法にて使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

1 バッテリ充電量を確認する

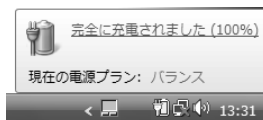
バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。

Battery LEDは次の状態を示しています。

白	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 バッテリの充電について「本節 2 バッテリを充電する」
消灯	・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常 異常の場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリ］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリ］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在の電源プランが表示されます。

参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LEDや［バッテリ］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリの残量が少ないことを示しています）
- バッテリのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をクリックして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［バッテリ低下の通知］や［バッテリ切れの操作］で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

  参照 省電力設定（電源オプション）について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。
①パソコン本体にACアダプタを接続し、充電する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、ACアダプタを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

■充電完了までの時間

状態	時計用バッテリ
電源ON（Power LEDが白色に点灯）	24時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 - バッテリを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが白色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが白色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳細は、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■使用できる時間

バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリ駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、充分な性能を発揮するためにACアダプタを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていきます。バッテリの保持時間は、放置環境などによって異なります。
保持時間は、充電完了の状態で電源を切った場合の目安にしてください。
詳細は、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリを長持ちさせる

本製品に搭載されたバッテリをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリの機能低下を比較的遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリの機能低下を比較的遅くすることができます。

- パソコンとACアダプタをコンセントに接続したままの状態で、パソコンを長時間使用しないときは、ACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもにACアダプタを接続してパソコンを使用し、バッテリパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリの劣化を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。

バッテリ充電量を節約する方法

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

  参照 「2章 2-2 休止状態」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

  参照 「2章 2-3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

- 省電力の電源プランを設定する

  参照 「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリパックを保管する

バッテリパックを保管するときは、次の説明をお読みください。
また、『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』にも、バッテリパックを保管するときの重要事項が記述されています。あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

- 充電状態の電池を放置しておくと電池が劣化し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この劣化は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

2 省電力の設定をする

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。
バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。
これらの電源設定を電源プランといいます。
「電源オプション」では、使用環境にあわせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。
購入時には、次の電源プランが用意されています。

- **バランス**
  必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。
- **省電力**
  パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力を抑えます。バッテリ駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリが通常よりも長くもちます。
- **高パフォーマンス**
  パフォーマンスと応答速度を最大にします。バッテリ駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリが通常よりも早く消費されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。詳しくは、「電源オプション」のヘルプをご覧ください。

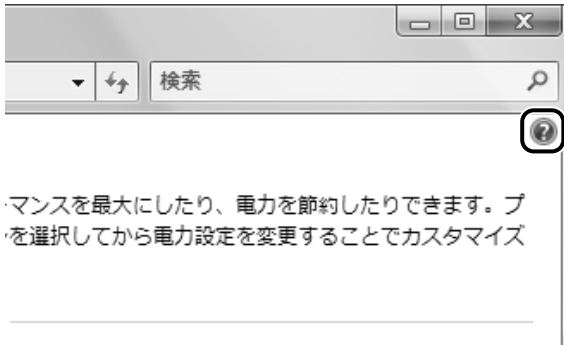
1 起動方法

1 **[スタート]ボタン（ ）→[コントロールパネル]をクリックする**

2 **[バッテリ設定の変更]をクリックする**

「電源オプション」が起動します。

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ボタンをクリックする

2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする

該当するページが表示されます。

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。
複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする

［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。

2 各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

ヘルプの起動方法

1 ［東芝HWセットアップ］画面上で、知りたい項目にポインタを置く

項目に対するヘルプが表示されます。

2 BIOSセットアップ

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。
印刷した本項目のページと『取扱説明書』を参照して実行してください。

BIOS（バイオス）セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。起動と終了方法や基本操作は『取扱説明書』を参照してください。
ここでは、BIOSセットアップの画面について説明します。

1 BIOSセットアップの画面

BIOSセットアップには次の2頁の画面があります。

（注）画面は一部をのぞいて標準設定値の表示例です

2 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY

■Total

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME

日付と時刻の設定は SPACE または BACKSPACE キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、↑ ↓ キーで行います。

■Date

日付を設定します。

■Time

時刻を設定します。

3 PASSWORD

■User Password

・Not Registered（標準値）...ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます。
・Registered............................ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

【ユーザパスワードの登録／削除／変更】

ユーザパスワードの設定は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。
BIOSセットアップでユーザパスワードを設定する場合は、「本章 3-1-2 BIOSセットアップでの設定」を確認してください。

参照 「東芝パスワードユーティリティ」について
「本章 3-1-1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

【ユーザパスワードを忘れてしまったとき】

ユーザパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

■Supervisor Password

・Not Registered（標準値）...スーパーバイザパスワードが登録されていないときに表示されます。
・Registered............................スーパーバイザパスワードが登録されているときに表示されます。

【スーパーバイザパスワードの登録】

スーパーバイザパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 「本章 3-2 スーパーバイザパスワード」

【スーパーバイザパスワードの削除／変更】

BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザパスワードを設定してしまうと、BIOSセットアップではスーパーバイザパスワードの削除と変更ができません。
その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザパスワードの削除や変更を行ってください。

参照 「本章 3-2 スーパーバイザパスワード」

【スーパーバイザパスワードを忘れてしまったとき】

スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。スーパーバイザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDD PASSWORD

■HDD

パスワードを設定するハードディスクです。

- Built-in HDD1........................HDD1に設定されます。
- Built-in HDD2*1 ....HDD2に設定されます。

＊1 HDD2台搭載モデルのみ

■HDD Password Mode

登録するHDDパスワードを選択します。HDDパスワード（ユーザHDDパスワード、マスタHDDパスワード）を登録していないときのみ、選択できます。HDDパスワードが登録されている場合は、いったんHDDパスワードを削除してから選択してください。

- User Only（標準値）..............ユーザHDDパスワードのみ設定する
- Master+User........................マスタHDDパスワードとユーザHDDパスワードを設定する

■User Password

ユーザHDDパスワードを設定します。

■Master Password

マスタHDDパスワードを設定します。
「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。

マスタHDDパスワードを設定し、続けてユーザHDDパスワードの設定を行います。

- Not Registered（標準値）...マスタHDDパスワードまたはユーザHDDパスワードが登録されていないときに表示されます。
- Registered.............................マスタHDDパスワードまたはユーザHDDパスワードが登録されているときに表示されます。

参照 HDDパスワードの設定方法「本章 3-4 HDDパスワード」

5 BOOT PRIORITY

■Boot Priority

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。
通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

・HDD → FDD → CD-ROM → LAN（標準値）
・FDD → HDD → CD-ROM → LAN
・HDD → CD-ROM → LAN → FDD
・FDD → CD-ROM → LAN → HDD
・CD-ROM → LAN → HDD → FDD
・CD-ROM → LAN → FDD → HDD

（上記2番目以降）指定のドライブ順に起動する

■HDD Priority

システムを起動するハードディスクドライブの順番を設定します。
「Built-in HDD1」は、HDD1からシステムを起動します。
「Built-in HDD2」*1は、HDD2からシステムを起動します。
「USB」は、「USB Memory BIOS Support Type」で「HDD」を選択した場合に、USBフラッシュメモリからシステムを起動します。

＊1 HDD2台搭載モデルのみ

・Built-in HDD1 → Built-in HDD2 → USB（標準値）
・Built-in HDD2 → Built-in HDD1 → USB
・Built-in HDD1 → USB → Built-in HDD2
・Built-in HDD2 → USB → Built-in HDD1
・USB → Built-in HDD1 → Built-in HDD2
・USB → Built-in HDD2 → Built-in HDD1

6 OTHERS

■Core Multi-Processing

CPUの動作モードを設定します。

・Enabled（標準値）..................Dual Coreモードに設定する
・Disabled.................................Single Coreモードに設定する

■Dynamic CPU Frequency Mode

・Dynamically Switchable（標準値）....CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
・Always High..CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
・Always Low..CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリ駆動時間を優先します。

■Execute-Disable Bit Capability

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能を有効にするかどうかを設定します。
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、コンピュータウイルスや不正アクセスによるバッファ・オーバーフロー攻撃からパソコンを守るために、セキュリティを強化する機能です。

・Available（標準値）................有効にする
・Not Available........................無効にする

■Virtualization Technology

CPUに実装されたIntel Virtualization Technologyの許可／禁止を設定します。
Intel Virtualization Technologyとは、１台のマシンを複数の仮想マシンとして動作させる技術です。
「Disabled」での使用を推奨します。

・Disabled（標準値）.................Intel Virtualization Technologyを禁止に設定する
・Enabled..................................Intel Virtualization Technologyを許可に設定する

■Auto Power On

自動的にシステムの電源を入れる機能の設定状態を示します。

・Disabled.................................Auto Power On機能が設定されていない
・Enabled（標準値）.................Auto Power On機能が設定されている

「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の機能によって、自動的に電源が入ったあとは設定が解除されます。
Windowsを使用している場合は「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の設定は無効になることがあります。
Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

Auto Power On機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。
アラームの時刻の設定は SPACE または BACKSPACE キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは、↑ ↓ キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

・Disabled.................................時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。
「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

・Disabled.................................月日を設定しない

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
［14］「PCI LAN」の「Built-in LAN」が「Enabled」の場合、有効になります。
Wake up on LAN機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。電源を切っている状態でも、バッテリを使っていないときの充電保持時間が別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』の表記よりも短くなります。

・Enabled ....Wake up on LAN機能を使用する
・Disabled（標準値）................Wake up on LAN機能を使用しない

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、Auto Power On機能を設定してシステムを起動させた場合、「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。

参照 パスワードセキュリティの設定「本章 3 パスワードセキュリティ」

● on Battery

「Wake-up on LAN」が「Enabled」の場合、有効になります。

・Enabled ....バッテリ駆動の際に、Wake-up on LAN機能を有効にします。
・Disabled（標準値）................バッテリ駆動の際に、Wake-up on LAN機能を無効にします。

● Critical Battery Wake-up

「Critical Battery Wake-up機能」の有効／無効を設定します。「Critical Battery Wake-up機能」とは、スリープ状態の間にバッテリの残量が少なくなった場合、自動的に休止状態になり、データをハードディスクに保存します。
システムがWindows Vistaの場合のみ有効です。

・Enabled（標準値）..................Critical Battery Wake-up機能を有効にする
・Disabled..................................Critical Battery Wake-up機能を無効にする

「Critical Battery Wake-up機能」を有効にするには、［電源オプション］画面の［詳細設定］タブで「バッテリ切れの操作」が「休止状態」に設定されている必要があります。
次の操作を行って、設定してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［モバイル コンピュータ］の［バッテリ設定の変更］をクリックする

② ［プラン設定の変更］をクリックする

③ ［詳細な電源設定の変更］をクリックする

④ ［電源オプション］画面の［詳細設定］タブで、［バッテリ］をダブルクリックする

⑤ ［バッテリ切れの操作］をダブルクリックし、表示された項目で「バッテリ駆動」が［休止状態］になっていることを確認する

⑥ ［OK］ボタンをクリックする

■Start Up Logo

起動時に表示される「Qosmio」ロゴについて設定します。

- ・Animation（標準値）..............アニメーションロゴが表示される
- ・Picture....................................ピクチャ（静止画）ロゴが表示される

■Sound Logo

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- ・Enabled（標準値）..................音を鳴らす
- ・Disabled..................................音を鳴らさない

パソコンを起動したときに鳴る音の音量はボリュームダイヤルで調整することができます。

参照 スピーカの音量調整「2章 8 サウンド」

■Front Operation Panel

「フロントオペレーションパネル」の動作を設定します。「Disabled」に設定すると、「フロントオペレーションパネル」に触れても動作しなくなります。

- ・Enabled（標準値）..................「フロントオペレーションパネル」を使用する
- ・Disabled..................................「フロントオペレーションパネル」を使用しない

■Beep Volume

警告音（ビープ音）とフロントオペレーションパネルに触れたときの音量を設定します。
Off、Low、Medium（標準値）、Highのいずれかを選択できます。

■Diagnostic Mode

BIOSのハードウェア診断テスト機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・Disabled（標準値）................ハードウェア診断テスト機能を無効にする
- ・Enabled..................................ハードウェア診断テスト機能を有効にする

■USB Sleep and Charge

パソコンの電源がOFFの状態でもUSBコネクタから電源を供給できるように設定します。
標準値では「Disabled」に設定されています。「Enabled」に設定を変更すると、本機能が使用できます。
「Enabled」にはMode1／Mode2のモード設定があります。通常はMode1に設定してください。
Mode1で本機能を使用できない場合は、Mode2に設定を変更してください。
ただし、外部機器によってはいずれかのモードに設定しても、本機能を使用できない場合があります。
この場合、「Disabled」に設定を変更し、本機能の使用を中止してください。

- ・Enabled（Mode1）...............有効にする
- ・Enabled（Mode2）...............有効にする
- ・Disabled（標準値）................無効にする

7 CONFIGURATION

■Device Config.

ブート時にBIOSが初期化する装置を指定します。

・Setup by OS（標準値）........OSをロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置はOSが初期化します。
・All Devices............................すべての装置を初期化する

プレインストールされているOSを使用する場合は、「Setup by OS」（標準値）を選択することを推奨します。

8 BATTERY

■Battery Save Mode

バッテリセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power（標準値）
Processing Speed = High
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Bright＊1
= Super-Bright＊2
Cooling Method
= Maximum Performance

●Low Power
Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Semi-Bright ＊1
= Bright ＊2
Cooling Method
= Battery Optimized

●User Setting（設定例）
Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method
= Battery Optimized

＊1 バッテリ駆動時
＊2 ACアダプタ接続時

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、↑ ↓キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

・High..処理速度を高速に設定する
・Low...処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。
一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

・Enabled..................................電力消費を低減する
・Disabled.................................電力消費を低減しない

● LCD Brightness（LCD輝度）

画面の明るさを選択します。

- Semi-Bright…………………………低輝度に設定する
- Super-Bright………………………最高輝度に設定する
- Bright…………………………………高輝度に設定する

● Cooling Method（CPU熱制御方式）

CPUの熱を冷ます方式を選択します。CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

- Maximum Performance……パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
- Performance………………………パソコン本体内部の温度が上昇したときに、［Maximum Performance］と［Battery Optimized］の中間的な方法で冷却します。
- Battery Optimized……………パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPU の処理速度を落として冷却します。
［Performance］より消費電力は少なくなります。

■PCI Express Link ASPM

PCI Expressの省電力機能を設定します。

- Auto……………………………………バッテリ動作中かつPCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。
- Disabled………………………………省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先させます。
- Enabled（標準値）………………PCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。

■Enhanced C-States

Enhanced C-Statesでは、電力消費の低減を設定します。

- Enabled（標準値）………………電力消費を低減する
- Disabled………………………………電力消費を低減しない

9 DRIVES I/O

■Built-in HDD1

現在接続されているSerial ATAのポートを表示します。変更はできません。

■Built-in HDD2

＊HDD2台搭載モデルのみ

現在接続されているSerial ATAのポートを表示します。変更はできません。

■ODD

現在接続されているSerial ATAのポートを表示します。変更はできません。

■eSATA

現在接続されているSerial ATAのポートを表示します。変更はできません。

10 PCI BUS

■PCI BUS

PCI バスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 DISPLAY

■LCD Display Stretch

本体液晶ディスプレイの解像度の伸張を選択します。

・Enabled（標準値）..................解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
・Disabled.................................解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

ここでの変更はWindows起動後のデスクトップには反映されないことがあります。
Windows起動後のStretchの設定は、［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］→［その他のオプション］→［NVIDIAコントロールパネル］→［フラットパネルスケーリングの変更］から行ってください。

■HDMI-CEC

HDMI連動機能を設定します。

・Enabled（標準値）..................有効にする
・Disabled.................................無効にする

［Enabled］に設定すると、「OPTION」ウィンドウが表示されます。

「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● Remote Power Control

本製品のHDMI連動機能に対応しているテレビから、パソコン本体の起動またはスリープ、休止状態、シャットダウンが行えるかどうかを設定します。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

・Enabled（標準値）..................有効にする
・Disabled.................................無効にする

テレビから本製品を終了する場合、「電源オプション」の［電源ボタンの動作の変更］の設定によって、スリープ、休止状態、シャットダウンのいずれかが行われます。

参照 ［電源ボタンの動作の変更］の設定について
「2章 2-3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

12 PERIPHERAL

■Internal Pointing Device

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

・Enabled（標準値）..................使用する
・Disabled.................................使用しない

13 LEGACY EMULATION

■USB KB/Mouse Legacy Emulation

USBキーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

・Enabled（標準値）..................レガシーサポートを行う
ドライバなしでUSBキーボード／USBマウスが使用できます。
・Disabled.................................レガシーサポートを行わない

■USB-FDD Legacy Emulation

・Enabled（標準値）..................レガシーサポートを行う
ドライバなしでUSBフロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
・Disabled.................................レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、[5]「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

■USB Memory BIOS Support Type

コンピュータの起動に使用するUSBフラッシュメモリに関する設定をします。

・HDD（標準値）........................USBフラッシュメモリをHDDとして扱います。起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」でのHDDの順位になります。ほかのHDDとの優先順位は、「HDD Priority」で設定できます。
・FDD ....USBフラッシュメモリをFDDとして扱います。起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」でのFDDの順位になります。

14 PCI LAN

■Built-in LAN

内蔵LANの機能を有効にするかどうかの設定をします。

・Enabled（標準値）..................有効にする
・Disabled.................................無効にする

3 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の3種類があります。

- Windowsのログオンパスワード
  - ・Windowsにログオンするとき
  - ・インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能「2章 4-2-FNキーを使った特殊機能キー」

- ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード
  - ・電源を入れたときや休止状態から復帰するとき、東芝パスワードユーティリティを起動して設定するとき

  ユーザパスワードやスーパーバイザパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。
  通常はユーザパスワードを登録してください。
  スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOSセットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
  この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。
- HDDパスワード
  ハードディスクを起動するとき

ここでは、ユーザパスワード／スーパーバイザパスワードやHDDパスワードの設定方法について説明します。

メモ

- スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。
  パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は有償です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。
  この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベッドの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	; : , . （スペース）など
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など ・記号の一部（半角） 【例】|（バーチカルライン） ¥（エン）など ・ほかのキー（SHIFTキーやCAPSLOCK英数キーなど）と同時に使用しないと入力できない文字	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう1度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザパスワード

ユーザパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」を使用することをおすすめします。また登録した文字列は、パスワードファイルを作成して確認することをおすすめします。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

登録

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［パスワードユーティリティ］をクリックする

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。

2 ［ユーザパスワード］タブで［ユーザパスワード］の［登録］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの登録］画面が表示されます。

3 ［新しいパスワード］の［入力：］にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは「＊＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。
間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

4 ［確認入力：］に手順 3 で入力したパスワードをもう1度入力し、［登録］ボタンをクリックする

メモ

- ［登録］ボタンをクリックする前に、［同時にHDDユーザパスワードに同じ文字列を登録する。］にチェックをすると、ここで設定したユーザパスワードがHDDパスワード（HDD1パスワード）としても登録することができます。
その場合は、［登録］ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。内容を確認し、［登録］ボタンをクリックしてください。

パスワードが登録されます。
入力エラーのメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じ、手順 3 から操作をやり直してください。

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。
このファイルをパスワードファイルと呼びます。パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

5 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［OK］ボタンをクリックすると、［名前を付けて保存］画面が表示されます。

6 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、フロッピーディスクなどの外部記憶メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。

① メディアをセットする
② [保存する場所] で保存先を選択する
③ [ファイル名] にファイル名を入力する
④ [保存] ボタンをクリックする

パスワードファイルが選択した保存先に作成されます。

メモ

- 手順 4 で [同時にHDDユーザパスワードに同じ文字列を登録する。] にチェックをした場合は、再起動をうながすメッセージが表示されます。
  [いいえ] ボタンをクリックしてください。

[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。

7 必要に応じて、[パスワードの注釈] を入力する

[パスワードの注釈] にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パソコンの電源を入れてパスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。
文字は1行につき最大40文字、最大5行目まで登録できます。この範囲外に入力した文字は登録できません。使用できる文字列はユーザパスワードと同様です。
パスワード文字列そのものを登録しないでください。

8 [OK] ボタンをクリックする

お願い

- パスワードファイルを保存した外部記憶メディアは、安全な場所に保管してください。

メモ

- 手順 4 で [同時にHDDユーザパスワードに同じ文字列を登録する。] にチェックをした場合は、電源を切る、または再起動するとHDDパスワードが登録されます。

削除

1 「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。

2 [ユーザパスワード] タブで [ユーザパスワード] の [削除] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの削除] 画面が表示されます。

3 [削除] ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

4 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの削除認証] 画面が表示されます。

5 ユーザパスワードを入力し、[確認] ボタンをクリックする

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザ権限で行ってください。

6 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

変更

1 「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。

2 [ユーザパスワード] タブで [ユーザパスワード] の [変更] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの変更] 画面が表示されます。

3 [新しいパスワード] の [入力：] に新しいパスワードを入力する

4 [確認入力：] に手順 3 で入力したパスワードをもう1度入力し、[変更] ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

5 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

［ユーザパスワードの変更認証］画面が表示されます。

6 ユーザパスワードを入力し、［確認］ボタンをクリックする

ここでは、まだパスワードは変更されておりませんので、今回手順 3 、 4 で入力したものではなく、登録済みのパスワードを使用してください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザ権限で行ってください。

パスワードが変更されました。
変更したパスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

7 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
パスワードファイルの作成方法は、「本項 1 - 登録」の手順 6 を確認してください。

2 BIOSセットアップでの設定

＊ **この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。**

BIOSセットアップでの設定は、「PASSWORD」の「User Password」で行います。

登録

1 ESC キーを押しながら電源を入れる

パスワードを設定している場合は、画面の指示に従って登録したパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを「User Password」の「Not Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。
パスワードは1文字ごとに ＊ が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 ENTER キーを押す

パスワードが確認され、「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 もう1度パスワードを入力する

確認のため、手順 4 と同じパスワードをもう1度入力してください。

7 ENTER キーを押す

パスワードが登録され、「User Password」は「Registered」に変わって表示されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 4 からやり直してください。

■BIOSセットアップの終了方法

BIOSセットアップの終了方法は、次のとおりです。

1 END キーを押す

「Are you sure? (Y/N) The changes you made will cause the system to reboot.」と表示されます。

2 Y キーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。

削除

1 ESC キーを押しながら電源を入れる

パスワードを設定している場合は、画面の指示に従って登録したパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

5 ENTER キーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
手順 4 で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順 4 からやり直してください。

6 ENTER キーを押す

ここでは何も入力しません。
「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

7 ENTER キーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除され、「User Password」は「Not Registered」に変わって表示されます。

購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本項 2 - BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

変更

1 ESC キーを押しながら電源を入れる

パスワードを設定している場合は、画面の指示に従って登録したパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

5 ENTER キーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。

6 **新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す**

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

7 **手順 6 で入力したパスワードをもう1度入力し、ENTERキーを押す**

パスワードが変更され、「User Password」は「Registered」に変わって表示されます。

手順 6 と手順 7 で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 6 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本項 2 - BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

2 スーパーバイザパスワード

「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。

BIOSセットアップでも登録することができます。

メモ

- 先にユーザパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザパスワードの登録はできません。
  スーパーバイザパスワードとユーザパスワードを両方登録する場合は、1度ユーザパスワードを削除し、スーパーバイザパスワードを登録してからもう1度ユーザパスワードを登録してください。
- スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- スーパーバイザパスワードを登録すると、ユーザーポリシーを設定できます。ユーザーポリシーとは、複数のユーザでパソコンを使用している場合の、各ユーザの権限を設定する機能です。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

起動方法

1 **[スタート]ボタン（ ）→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[ファイル名を指定して実行]をクリックする**

2 **「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥PasswordUtility¥TOSPU.exe」と入力する**

3 **[OK]ボタンをクリックする**

[東芝パスワードユーティリティ]画面が表示されます。

パスワードを登録している場合はパスワードで認証を行ってください。

4 **[スーパーバイザパスワード]タブをクリックする**

メモ

- F12キーを押しながら電源を入れて起動ドライブを選択したい場合は、「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで［ユーザポリシー］の［変更］ボタンをクリックし、［ユーザポリシーの設定］画面の［HWセットアップ／BIOSセットアップの使用を許可する］のチェックをはずさないでください。
  チェックをはずしていると、F12キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。

  参照 F12キーで起動ドライブを変更する方法「2章 1-2 起動するドライブを変更する場合」

- 「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザパスワード］タブで、［ユーザポリシーの設定］画面の［ユーザパスワードの登録／変更を強制する］をチェックすると、次のように設定されます。
  - **ユーザパスワードが登録されていない場合**
    設定後の1回目の起動時に、「New Password=」と表示されます。
    ユーザパスワードの登録を行ってください。
  - **ユーザパスワードが登録されている場合**
    設定後の起動時に、「Password=」でユーザパスワードを初めて入力したときに、「New Password=」と表示されます。
    新しいユーザパスワードに変更してください。

  「Verify Password=」に「New Password=」で入力したパスワードをもう一度入力すると、ユーザパスワードが登録／変更されます。

操作方法

■登録、削除、変更

スーパーバイザパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザパスワードの設定方法と同様です。
ユーザパスワードの設定を確認してください。

参照 ユーザパスワード「本節 1-1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

なお、スーパーバイザパスワードを削除すると、ユーザパスワードも同時に削除されます。

■一般ユーザの操作を制限する

スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは「東芝HWセットアップ」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
スーパーバイザパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

1 スーパーバイザパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

2 ［スーパーバイザパスワード］タブで［ユーザポリシー］の［変更］ボタンをクリックする

［ユーザポリシーの設定］画面が表示されます。

3 操作を許可する項目をチェックする

4 ［設定］ボタンをクリックする

5 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

［ユーザポリシーの設定認証］画面が表示されます。
スーパーバイザパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

6 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

2 BIOSセットアップでの設定

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

BIOSセットアップでも、スーパーバイザパスワードを登録することができます。

操作方法

■登録

BIOSセットアップの「PASSWORD」の「Supervisor Password」で登録できます。
登録方法は、BIOSセットアップでのユーザパスワードの登録方法と同様です。
ユーザパスワードの登録を確認してください。

参照 「本節 1 - 2 - 登録」

■削除、変更

BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザパスワードを登録してしまうと、BIOSセットアップではスーパーバイザパスワードの削除と変更ができません。
その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザパスワードの削除や変更を行ってください。

参照 「本節 2 - 1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

また、BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザパスワードを登録してしまうと、次の操作も制限され、設定ができなくなります。

・BIOSセットアップ画面での設定変更
・東芝HWセットアップでの設定変更
・F12キーを押しながら電源ボタンを押して、起動ドライブを選択する

その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザパスワードの削除をしてから、操作を行ってください。

3 パスワードの入力

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードが設定されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

■パスワードを入力する

1 登録したとおりにパスワードを入力し、ENTERキーを押す

NUM LOCK LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

■指紋認証を使う

1 指紋センサに指をのせ、手前側にすべらせる

参照 指紋認証「本章 4 指紋認証を使う」

東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。

■パスワードを入力する

1 認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する

NUM LOCK LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

2 ［確認］ボタンをクリックする

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、エラーメッセージが表示されます。

1 パスワードを忘れてしまった場合

ユーザ／スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認してください。

- **パスワードファイルを確認する**
  電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器で確認してください。

上記の方法でパスワードの確認ができなかった場合は、お近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDDパスワード

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップの「HDD PASSWORD」で行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有償での交換となります。
  ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社は一切責任を負いません。
  HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、ユーザHDDパスワードとマスタHDDパスワードの2つを設定することが可能です。

■ユーザHDDパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
マスタHDDパスワードを削除すると、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。

■マスタHDDパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
マスタHDDパスワードはユーザHDDパスワードの代わりに使えます。ユーザHDDパスワードを忘れた場合でも、マスタHDDパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。マスタHDDパスワードを使用してユーザHDDパスワードを変更することもできます。
なお、マスタHDDパスワードのみを登録することはできません。

組織などでマスタHDDパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザに対してパソコン本体を配布する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでマスタHDDパスワードと仮のユーザHDDパスワードを設定しておく必要があります。

ユーザHDDパスワードとマスタHDDパスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、ユーザHDDパスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

マスタHDDパスワード（Master Password）の項目は、BIOSセットアップの「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。
マスタHDDパスワードを設定し、続けてユーザHDDパスワードの設定を行います。

1 ESCキーを押しながら電源を入れる

パスワードを設定している場合は、画面の指示に従って登録したパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを［HDD］の項目に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押して、HDDパスワードを登録したいハードディスクドライブを選択する

- Built-in HDD1
  HDD1に登録します。
- Built-in HDD2*1
  HDD2に登録します。

*1 HDD2台搭載モデルのみ

4 カーソルバーを「User Password」の「Not Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

5 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、ユーザパスワードの場合と同様です。

参照 ユーザパスワードに使用できる文字「本節- パスワードとして使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう気をつけて入力してください。

6 ENTERキーを押す

パスワードが確認され、「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

7 パスワードを入力する

確認のため、手順 5 と同じパスワードをもう1度入力してください。

8 ENTER**キーを押す**

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 5 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本節 1 - 2 - BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

メモ

- 「東芝パスワードユーティリティ」でユーザパスワードを設定している場合、同じパスワードを使えばHDDパスワードを設定することができます。

4 HDDパスワードの削除

1 ESC**キーを押しながら電源を入れる**

パスワードを設定している場合は、画面の指示に従って登録したパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1**キーを押す**

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを［HDD］の項目に合わせ、SPACE**または**BACKSPACE**キーを押して、HDDパスワードを削除したいハードディスクドライブを選択する**

- **Built-in HDD1**
  HDD1のHDDパスワードを削除します。
- **Built-in HDD2**＊1
  HDD2のHDDパスワードを削除します。

＊1 HDD2台搭載モデルのみ

4 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACE**または**BACKSPACE**キーを押す**

パスワードが入力できる状態になります。

5 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

6 ENTER**キーを押す**

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。

手順 5 で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 5 からやり直してください。

7 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

8 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除されます。

BIOSセットアップの「HDD Password Mode」で「Master+User」を選択した場合は、マスタHDDパスワードの削除を行うと、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。
ユーザHDDパスワードのみを削除することはできません。
BIOSセットアップの終了方法は、「本節 1-2-BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

5 HDDパスワードの変更

BIOSセットアップの「HDD Password Mode」で選択している状態によって異なります。

■「User Only」の場合

ユーザHDDパスワードを削除してから、もう1度登録を行ってください。

■「Master+User」の場合

マスタHDDパスワードを変更する場合は、マスタHDDパスワードを削除してから、もう1度登録を行ってください。
マスタHDDパスワードの削除を行うと、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。
ユーザHDDパスワードのみ変更する場合は、次の手順を行ってください。

1 ESCキーを押しながら電源を入れる

パスワードを設定している場合は、画面の指示に従って登録したパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを［HDD］の項目に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押して、HDDパスワードを変更したいハードディスクドライブを選択する

- Built-in HDD1
  HDD1のHDDパスワードを変更します。
- Built-in HDD2＊1
  HDD2のHDDパスワードを変更します。

＊1 HDD2台搭載モデルのみ

4 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

5 登録してあるパスワードを入力する

ユーザHDDパスワードを入力してください。またはユーザHDDパスワードの代わりに、マスタHDDパスワードを入力することもできます。この場合、マスタHDDパスワードを使ってユーザHDDパスワードを変更することができます。
入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

6 ENTERキーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
手順 5 で入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 5 からやり直してください。

7 新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

8 手順 7 で入力したパスワードをもう1度入力し、ENTERキーを押す

パスワードが変更されます。
手順 7 と手順 8 で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 7 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本節 1 - 2 - BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れると「Built-in HDD1 Password =」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 登録したとおりにHDDパスワードを入力し、ENTERキーを押す

NUM LOCK LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。
HDD2台搭載モデルでは、HDD1、HDD2それぞれにHDDパスワードを設定できます。
表示されるメッセージに従って、それぞれのHDDパスワードを入力してください。

- **「Built-in HDD1 Password =」と表示された場合**
  HDD1のHDDパスワードを入力してください。
- **「Built-in HDD2 Password =」と表示された場合**
  HDD2のHDDパスワードを入力してください。

メモ

- ユーザパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。
  ただし、ユーザパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。
- HDD2台搭載モデルで、HDD1とHDD2の両方にHDDパスワードを設定してある場合は、HDD1→HDD2の順に認証が求められます。
  ただし、HDD1とHDD2のHDDパスワードが同一の文字列の場合は、HDD1の認証終了後、HDD2の認証は省略されます。

4 指紋認証を使う

本製品には「指紋センサ」と「指紋認証ユーティリティ（東芝フィンガープリントセキュリティ）」が用意されています。ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサ上にすべらせるだけで、次のことが実行できます。

- Windows ログオン
- インターネットのホームページで、パスワードの入力
- スクリーンセーバの解除
- パソコン本体起動時のユーザパスワードまたはHDDパスワードの入力
- スリープからの復帰

など

詳しくは「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

指紋認証の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-14 指紋認証について」を確認してください。

2 Windowsログオンパスワードを設定する

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、「Windows ログオンパスワード」を設定しておく必要があります。
Windowsログオンパスワードを設定していない場合は、[コントロールパネル] の [ユーザーアカウントと家族のための安全設定] から設定することができます。

参照 Windowsセットアップ『セットアップガイド』

参照 Windowsログオンパスワードの設定方法
『Windowsヘルプとサポート』

すでにWindowsログオンパスワードを設定してある場合は、「本節 3 指紋を登録する」に進んでください。

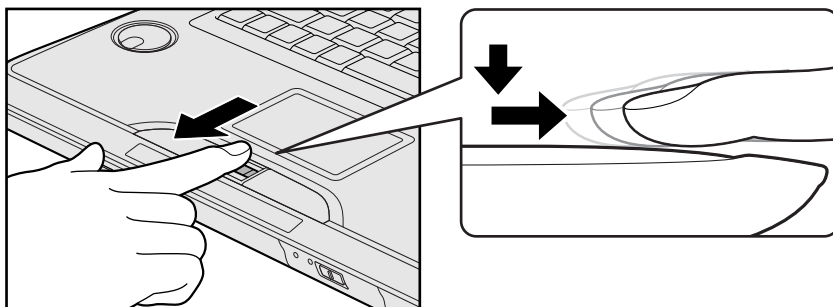
3 指紋を登録する

「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、2本以上の指を登録してください。
指紋センサには、最大21パターンの指紋を登録できます。複数のユーザでパソコンを使用している場合は、全ユーザあわせて21パターン登録できます。例えば1人で10パターンの指紋を登録した場合、ほかのユーザが登録できるのは、計11パターンまでです。

指紋センサに指紋をうまく読み取らせるには

1 指紋センサに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、第1関節を軽く指紋センサ中央の上におく

2 第1関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサに触れるように手前に水平に引く

指先だけ指紋センサにのせると、指紋が認識されない場合があります。第1関節から先端にかけて指のはらの部分が指紋センサに触れるように、ゆっくりとすべらせてください。

1 操作方法

「指紋認証ユーティリティ」でユーザ登録を行います。ユーザ登録では、Windowsのユーザアカウントとそのログオンパスワードを登録したあと、そのユーザアカウントでログオンし、認証で使用する指（指紋）を登録します。また、登録したWindows ログオンパスワードは、「指紋認証ユーティリティ」の各種機能を使用するためのマスタパスワードとしても使用します。

メモ

- Windowsログオンパスワードは指紋認証の代わりに使用できますが、指紋のユーザ登録など一部の機能はWindowsログオンパスワードで代用することはできません。

1 指紋を登録するユーザアカウントでログオンする

2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TrueSuite Access Manager］→［TrueSuite Access Manager］をクリックする

3 ［Windowsパスワード入力］にWindowsログオンパスワードを入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

［ユーザーの指紋］画面が表示されます。

4 指紋を登録する指をチェックする

体勢によっては親指での認証は難しいので、親指以外の指を登録することおすすめします。

なお、［ユーザーの指紋］画面が表示されてから約2分以内に次の操作を行わないと、［認証］画面に戻ります。

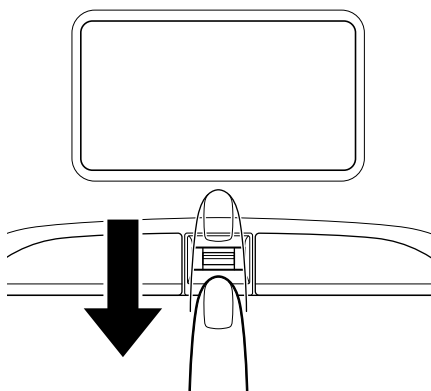
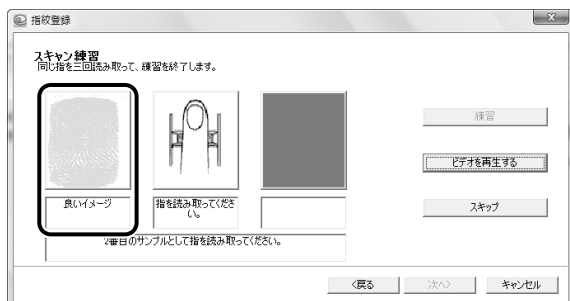
［指紋登録］画面が表示されます。

5 画面に表示される説明と動画をよく見て、［次へ］ボタンをクリックする

動画は1回再生したあと停止しますが、［ビデオを再生する］ボタンをクリックするともう1度再生されます。

［スキャン練習］画面が表示されます。

6 指紋センサに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

第1関節を指紋センサの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
このとき、タッチパッドに触れないように気をつけてください。

同じ指を3回認識させてください。指紋センサに指をすべらせると、画面の3つのボックスに、1回ごとの指紋データの読み取り結果が表示されます。
読み取りに成功すると、ボックスの下に「良いイメージ」と表示されます。3回成功するまで繰り返し認識させてください。

3回とも指紋データの読み取りに成功すると、「練習は成功しました。」と画面下部に表示されます。

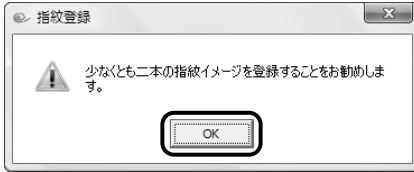
7 ［次へ］ボタンをクリックする

［指紋イメージの読み取り］画面が表示されます。

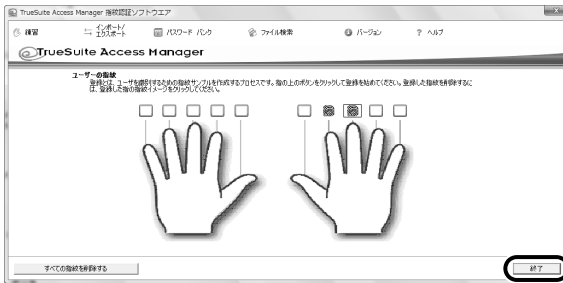
8 指紋センサに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

第1関節を指紋センサの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
ここで登録指紋をできるだけ精細に読み取らせることで、認証率を向上させることができます。
同じ指を3回読み取らせます。1回成功するごとに画面中央の枠に指紋が表示されます。

3回とも指紋の読み取りに成功すると、［ユーザーの指紋］画面が表示され、登録した指を示すボックスに指紋イラストが表示されます。

9 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

10 違う指で手順 **4** → **5** → **8** を繰り返す

少なくとも2本の指を登録してください。

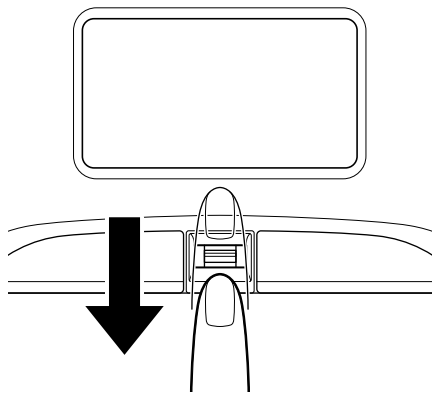
11 ［終了］ボタンをクリックする

4 指紋認証を行う

指紋を登録すると、指紋センサに指をすべらせることで、Windowsへログオンできます。
また、パソコンを複数のユーザで使用している場合、ユーザの選択も省略できます。

1 操作方法

1 パソコンに電源を入れる

Windowsが起動し、認証のための画面が表示されます。

2 指紋登録した指の第1関節を指紋センサの上にのせ、手前側にすべらせる

指紋が認証されると画面に［成功しました］と表示され、Windowsにログオンします。

指紋認証がうまくいかなかった場合は、メッセージが表示されます。また指紋認証を連続して5回以上失敗すると、約2分の間、指紋認証を使用できなくなります。指紋認証がうまくいかない場合は、次のように操作してキーボードからパスワードを入力し、Windowsにログオンしてください。

①［ユーザーの切り替え］をクリックする
　ユーザを選択する画面が表示されます。
②ログオンしたいユーザのアイコンをクリックする
　ログオンパスワードを入力する画面が表示されます。
③キーボードからパスワードを入力し、ENTERキーを押す

2 その他の使いかた

パソコンの起動や復帰時に指紋で認証させる

■パソコンの起動時（Pre-OS指紋認証）

パソコンの起動時に、ユーザパスワードやHDDパスワードの代わりに、指紋認証を使用することもできます。事前にユーザパスワードやHDDパスワードを登録しておいてください。

メモ

- Pre-OS指紋認証を使用するためには、ユーザパスワードの登録が必要です。

参照 ユーザパスワード、HDDパスワードの登録方法「本章 3 パスワードセキュリティ」

また、指紋認証をユーザパスワードやHDDパスワードの代わりに使用するための設定も必要です。

参照 設定の詳細「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ

ユーザパスワードやHDDパスワードの指紋認証に続けて5回失敗すると、指紋認証ができなくなります。その場合は、キーボードからパスワードを入力してパソコンを起動してください。
また指紋認証画面が表示されているときに、キーボードからパスワード入力をしたい場合は *BACKSPACE* キーを押してください。キーボードからのパスワード入力が可能になります。

お願い 指紋認証のパスワード入力について

- あらかじめ、「付録 1 - 14 - 指紋認証のパスワード入力について」を確認してください。

■スクリーンセーバの解除

次のように設定します。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] → [デスクトップのカスタマイズ] をクリックする
② [スクリーンセーバーの変更] でをクリックする
③ [再開時にログオン画面に戻る] をチェックする
＊パソコン本体に複数のユーザが登録されている場合は、[再開時にログオン画面に戻る] が表示されます。
④ [OK] ボタンをクリックする

■スリープからの復帰

次のように設定します。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] → [バッテリ設定の変更] をクリックする
② [電源プランの選択] で選択されているプランの [プラン設定の変更] をクリックする
③ [詳細な電源設定の変更] をクリックする
④ [追加の設定] の [復帰時のパスワードを必要とする] で、[バッテリ駆動] および [電源に接続] を [はい] に設定する
　各項目を変更できない場合は、画面上部の [現在利用できない設定の変更] をクリックして、ユーザアカウントを許可してください。

指紋データのバックアップをとる

登録してある指紋データをバックアップすることができます。バックアップしておくと、リカバリしたときなどに指紋を再登録しなくてもすみます。また、別のパソコンで指紋認証を使用したいときに、指紋データを登録しなくてもすみます。

参照 設定の詳細「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ

パソコンを捨てるまたは人に譲る場合

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを消去することをおすすめします。

参照 指紋データの消去「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ

メモ

- Password Bank（インターネットのホームページで指紋認証によるID、パスワードを入力する機能）は、Internet Explorerで動作します。
- Password Bank機能、ファイル暗号化機能を使用する場合は、次の手順でインストールしてから実行してください。

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［プログラムのアンインストール］をクリックする
③ ［TrueSuite Access Manager］をクリックする
④ ［変更］ボタンをクリックする
［ようこそ］画面が表示されます。
⑤ ［変更］をチェックして［次へ］ボタンをクリックする
［機能の選択］画面が表示されます。
⑥ 追加したい機能をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする
［メンテナンスの完了］画面が表示されます。
⑦ ［はい、今すぐコンピュータを再起動します。］をチェックして［完了］ボタンをクリックする
コンピュータが再起動します。

「指紋認証ユーティリティ」を起動し、追加した機能が画面上部に表示されていることを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TrueSuite Access Manager］→［Document］をクリックする

7章

パソコンの動作がおかしいときは

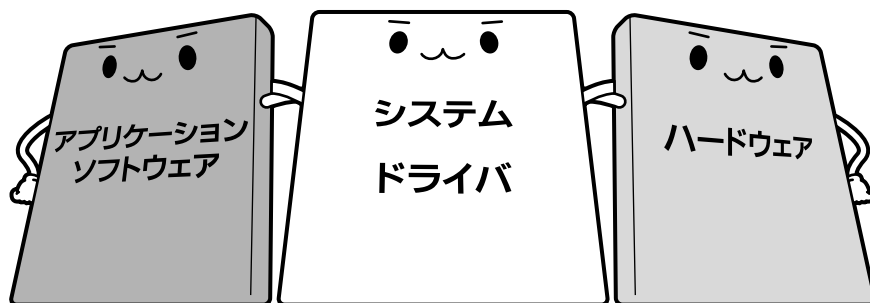
パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。
そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

■パソコンを構成する3つの部分

● **アプリケーションソフトウェアとは**
メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（ワード）（文書作成ソフト）やExcel（エクセル）（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

● **システム、ドライバとは**
システムは、オペレーティングシステム、OS（オーエス）とも言い、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows Vistaです。
ドライバは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバに、ディスプレイドライバやサウンドドライバ、マウスドライバなどがあります。基本的なドライバは、システムが標準装備していますが、周辺機器によっては、専用のドライバが付属されている場合があります。

● **ハードウェアとは**
バッテリやACアダプタはもちろん、画面（ディスプレイ）、キーボード、ハードディスク、CPUなど、パソコン本体を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状にあわせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム、ドライバ→パソコン本体の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 Q&Aを読む

本書には、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
また、『セットアップガイド』などにもQ&Aが記載されているので、読んでください。

STEP2 付属のマニュアルを読む

本製品には目的別に複数のマニュアルがあります。
本書以外のマニュアルも読んでください。

STEP3 サポートのサイトで調べる

「dynabook.com」へ接続し、各種サポート情報から解決方法を探します。

参照 dynabook.com「本節 3 トラブル事例を見てみる」

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』で確認してください。

3 トラブル事例を見てみる

東芝パソコン全体の「よくあるご質問 FAQ」や、デバイスドライバや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
URL：http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm

よくあるご質問FAQ
パソコンの操作に困ったときに、解決方法を探すことができます。

参照 「本項 - パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問FAQ」」

ダウンロード
デバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。

ウイルス・セキュリティ情報

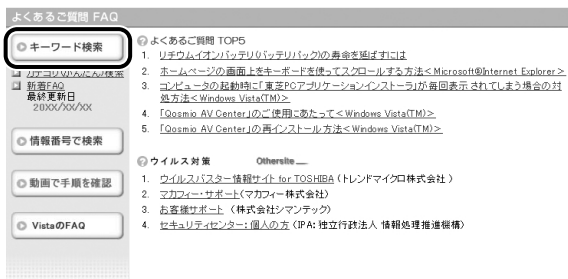
技術的なご相談／修理のご相談
技術的なご相談や修理のご相談を紹介しています。

お客様登録

（表示例）

サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

■パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問 FAQ」

「よくあるご質問 FAQ」では、日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。

（表示例）

キーワード検索では、条件の選択やキーワードや文章を入力して、検索できます。

（表示例）

サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

■メールで質問する「東芝PCオンライン」

「よくあるご質問 FAQ」を探しても問題が解決できないときは、専用フォームからお問い合わせください。24時間365日いつでも受け付けており、サポート料は無料です。
ご利用には「お客様登録」が必要ですので、事前に登録をしてください。

参照 お客様登録について「付録 3 お客様登録の手続き」

1 「よくあるご質問 FAQ」で解消方法を探す

2 「A. 回答・対処方法」の説明の後のアンケートに答える

「3」「4」「5」のいずれかの項目にチェックをつけてください。

3 ［送信］ボタンをクリックする

東芝PCオンラインへのリンク画面が表示されます。

4 「東芝PCオンライン」をクリックする

画面の説明に従って専用フォームからご質問ください。
メールにてご回答させていただきます。
質問内容、お問い合わせ状況により、回答にお時間をいただくことがございます。ご了承ください。
このほか、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。アプリケーションについて知りたいことがあるときは、ホームページを確認するのも良いでしょう。

参照 ホームページアドレスについて『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』

■モジュールのダウンロード

デバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。
「ダウンロード」から検索できます。［キーワード検索］では、本製品のシリーズ名などを選択すると、モジュールの情報が一覧表示されます。
OSをアップグレードしたい場合は、OSにあったモジュールをダウンロードしてください。

（表示例）

メモ

- 相談窓口やPCのリサイクル、お客様登録については、『東芝PCサポートのご案内』にも詳しく紹介されています。

2 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『セットアップガイド』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『セットアップガイド』も参照してください。

1 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
SHIFTキーやCTRLキーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。
外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「4章 9-2-2 方法2－FN＋F5キーを使う」

Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

参照 詳細について「4章 9-2 表示を切り替える」

Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A テレビまたは外部ディスプレイを接続してください。

テレビまたは外部ディスプレイをプライマリデバイスに指定してデュアルビュー表示の設定をした場合に、スリープ状態や休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイを取りはずすと、スリープ状態や休止状態から復帰したときに画面が表示されません。
テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープ状態や休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A [FN]＋[F7]キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください＊1

[FN]＋[F6]キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。
[FN]キーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると設定はもとに戻ります。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

［電源オプション］には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。
詳細は、［電源オプション］のヘルプを参照してください。
次の手順で設定を変更してください。＊1

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［ システムとメンテナンス］→［ 電源オプション］をクリックする
③ 利用するプランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする
④ ［ディスプレイの輝度を調整］を設定する
　［バッテリ駆動］と［電源に接続］をそれぞれ設定してください。
⑤ ［変更の保存］ボタンをクリックする

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

2 キーボード

Q ポインタが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

① [FN]＋[F9]キーを押す
　［タッチパッド］のカードが表示されます。
② [FN]キーを押したまま[F9]キーを押し直し、［無効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A **飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。**
もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

3 システム／ハードディスク

Q パソコンが応答しなくなった

A **アプリケーションを終了できない場合や、アプリケーションを終了してもトラブルが解消しない場合は、パソコンを再起動してください。**

参照 再起動『セットアップガイド 1章 4 -②- 再起動』

A **Windows起動時に問題が起きた場合や、パソコンを再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押してWindowsを強制終了してください。**
システムが操作できなくなったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
強制終了したあと、電源を入れ直してください。

A **以上の手順でも解決できない場合は、「本項- Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。**

Q Windowsがセーフ モードで起動した

A **パソコンを再起動してください。**

参照 再起動『セットアップガイド 1章 4 -②- 再起動』

A **以上の手順でも解決できない場合は、「本項 - Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない」を確認してください。**

Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない

A **ドライバやシステムのアップデート中（更新中）にトラブルが発生した場合は、直前の正常に起動したときの構成で起動してください。**

参照 前回正常に起動したときの構成で起動する
『セットアップガイド 2章 1 - Q 電源を入れたが、システムが起動しない』

A アプリケーションをインストールしてから、この問題が発生するようになった場合は、インストールしたアプリケーションがWindowsの動作に影響している可能性があります。

アプリケーションをアンインストールしてください。

参照 アンインストールについて『アプリケーションに付属の説明書』

A 周辺機器を接続してから、この問題が発生するようになった場合は、接続した周辺機器がWindowsの動作に影響している可能性があります。

周辺機器を取りはずしてください。周辺機器によっては、周辺機器に付属のドライバやアプリケーションをパソコンにインストールしている場合があります。これらのドライバやアプリケーションもアンインストールしてください。

参照 周辺機器の取り扱いについて『周辺機器に付属の説明書』

4 タッチパッド／マウス

＊モデルにより、マウスは別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

① FN＋F9キーを押す

　［タッチパッド］のカードが表示されます。

② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［有効］アイコンが大きい状態で指をはなす

参照 タッチパッドについて「2章 3 タッチパッド」

Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする

② [マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。

③ [ボタン] タブで [ダブルクリックの速度] のスライダーバーを左右にドラッグする

④ [OK] ボタンをクリックする

Q ポインタの速度を調節したい

A 次の手順でポインタの速度を変更してください。

① [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする

② [マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。

③ [ポインタオプション] タブで [速度] のスライダーバーを左右にドラッグする

④ [OK] ボタンをクリックする

Q 光学式マウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインタがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。
光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

5 指紋認証

Q 指紋の読み取りがうまくいかない

A もう1度正しい姿勢で操作してください。

詳しい操作方法は、「6章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

A 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A どうしてもうまくいかない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「6章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 指にけがをしたため指紋の読み取りができなくなった

A 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A 登録したすべての指の指紋が読み取れない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「6章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 認識率が下がったら

A 指紋センサの表面がよごれていないか確認してください。

よごれている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってからもう1度指紋認証を行ってください。

参照 詳細について「6章 4 指紋認証を使う」

A 指の状態を確認してください。

指に傷があったり、手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋登録時と状態が異なると認識できない場合があります。認識率が改善されない場合は、ほかの指で登録してください。

参照 詳細について「6章 4 指紋認証を使う」

A 指の置きかたを確認してください。

指を指紋センサと平行になるように置き、指紋センサに指の中央を合わせてください。指紋センサの上に第1関節がくるように置き、すべらせるときはゆっくりと一定の速さですべらせてください。それでも認証できない場合は、指をすべらせる速さを調整してください。

参照 詳細について「6章 4 指紋認証を使う」

6 その他

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「1章 1 - 2 起動方法」を参照して、注意制限事項を確認してください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割される場合、分割されるこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大65,000ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさの約2.3倍の空き容量が、保存先の装置に必要です。

2 パソコン本体について

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。
  タッチパッドが故障するおそれがあります。

3 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- Disk LEDが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクやCD／DVDなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD／DVDなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

4 CDやDVDについて

CD／DVDの操作にあたって

- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 イジェクトホールについて「2章 6-3- CD／DVDが出てこない場合」

- ドライブのトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。けがのおそれがあります。
- CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVDを傷つけることがあります。
- 本製品では、8cm、12cmのCD／DVDのみ使用できます。これら以外のCD／DVDは使用できません。

DVD-RAMのフォーマットについて

- フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されている情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

付録

5 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインタフェースを使用するとき、1000BASE-T規格は、エンハンストカテゴリ（CAT5E）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。100BASE-TX規格は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。
  10BASE-T規格は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

6 無線LANについて

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

・通信内容を盗み見られる
　悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
　　IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
　　メールの内容
　などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

・不正に侵入される
　悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
　　個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
　　特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
　　傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
　　コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
　などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。
セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

セキュリティ機能

- セキュリティ機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。
  不正アクセスを防ぐために、ネットワーク名（SSID）の設定や、暗号化機能（WEP、WPA）を設定されることを強くおすすめします。
  また、お使いの無線LANアクセスポイントで、登録したMACアドレスのみ接続可能にする設定などの対策も有効です。
  公共の無線LANアクセスポイントなどで使用される場合は、「Windowsファイアウォール」やファイアウォール機能のあるウイルスチェックソフトを使用して、不正アクセスを防止してください。

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録 6-7 使用できる国／地域について」を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピュータすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

7 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書および『取扱説明書』で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
  - ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやMOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

USBの常時給電について

- 本機能は初期設定では無効になっておりますので、使用するには本機能を有効にする必要があります。
  有効に設定する方法は、次のとおりです。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする
  ［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。
  ②［USB］タブの［スリープ時のUSB充電］で［有効にする(Mode1)］をチェックする
  通常は［有効にする(Mode1)］に設定してください。［有効にする(Mode1)］で本機能を使用できない場合は、［有効にする(Mode2)］に設定を変更してください。
  ③［OK］ボタンをクリックする
- 本機能を利用しての充電は、専用充電器で充電する場合と比較して、より多くの充電時間が必要になることがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続せず常時給電に対応したUSBコネクタに外部機器を接続した場合でも、USBコネクタからの常時給電が行われます。このためパソコンの電源がOFFの状態でもバッテリが消費されますので、ACアダプタを接続してお使いになることをおすすめします。
- パソコン本体の電源ON／OFFと連動するUSBバスパワー（DC5V）連動機能を持つ外部機器は、常に動作状態になることがあります。
- 常時給電に対応したUSBコネクタに接続された外部機器の使用電流が過大の場合、安全性確保のためUSBバスパワー（DC5V）の供給を停止させることがあります。
  この場合、外部機器の仕様を確認し、常時給電に対応したUSBコネクタに接続する外部機器の使用電流全体の合計を1000mA以下にしてください。
  その後、パソコン本体の電源をON／OFFすることで復帰します。
- 「東芝HWセットアップ」の設定で、本機能の設定が「有効にする」になっていると、常時給電に対応したUSBコネクタでは「USB WakeUp 機能」*1 が機能しません。
  常時給電に対応したUSBコネクタで「USB WakeUp 機能」を使用する場合は、本機能を「無効にする」に設定してください。

  ＊1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能はOSがWindows Vistaの場合、すべてのUSBコネクタで有効です。

eSATA対応機器の操作にあたって

- スリープまたは休止状態でパソコンのeSATA/USBコネクタにeSATA対応機器を接続しないでください。eSATA対応機器を認識できない場合があります。
  eSATA対応機器は、パソコンに電源が入った状態で接続してください。

i.LINK（IEEE1394）対応機器の操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときにほかのi.LINK対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。
i.LINK対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないとき、またはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのi.LINK対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべてのi.LINK対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400対応）を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカにお問い合わせください。
- 取り付ける機器によっては、スリープまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードとAC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スリープまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、i.LINK対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のi.LINK対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

ヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

光デジタル対応機器の操作にあたって

- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行っておりません。
  したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。
  パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。
  ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が48kHzに固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合､次の内容をよくお読みください。
  ・お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
  ・お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」で「コピー禁止」のDVDを再生した場合や、著作権保護機能（SCMSに準拠）を持つプレーヤでCDや音楽ファイルを再生した場合、録音できない場合があります。
  SCMS（シリアル・コピー・マネージメント・システム）とは、デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術です。例えば、音楽CDからMDに録音することはできますが、録音したMDからさらにほかのMDに録音することはできません。

オーディオ機器の操作にあたって

- すべてのオーディオ機器の動作確認は行っておりません。
  したがって、すべてのオーディオ機器の動作は保証いたしかねます。
- お客様がオーディオ入力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、オーディオ入力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。

ExpressCardの操作にあたって

- ホットインサーションに対応していないExpressCardを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- ExpressCardには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。ExpressCardを取りはずす際に、ExpressCardが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからExpressCardを取りはずしてください。
- ExpressCardの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにExpressCardを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビとの接続動作確認は行っていません。したがって、すべてのテレビへの表示は保証できません。
  テレビによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、DVDなどを再生する前に、表示装置の切替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  ・データの読み出しや書き込みをしている間
  ・通信を行っている間
- デュアルビュー（拡張）表示でテレビまたは外部ディスプレイをプライマリデバイスに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにログオン画面が表示されずに操作ができなくなることがあります。
- HDMI出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMIケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示またはサウンド出力が切り替わることがあります。

8 バッテリについて

バッテリを充電するにあたって

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
  バッテリは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

9 CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD／DVDに書き込む前に

CD／DVDに書き込みを行うときは、市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。
CD／DVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したCD／DVDの損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD／DVDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD／DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカのメディアを使用してください。

参照 CD／DVDについて「2章 6 CDやDVDを使う」

付録

- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」

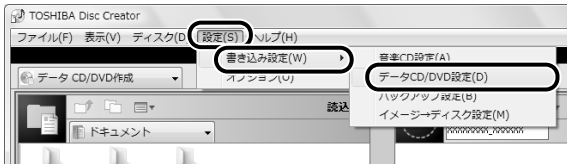
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  ・スクリーンセーバ
  ・ウイルスチェックソフト
  ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  ・音楽CDやDVDの再生アプリケーション
  ・モデムなどの通信アプリケーション　　など
  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SDメモリカード、SDHCメモリカード、USB接続などのハードディスクドライブなど、本製品の内蔵ハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-RAMにデータを書き込むことはできません。
- 本製品に付属している「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-Video、DVD-VR、DVD-Audioを作成することはできません。
- 書き込み可能なDVDをバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能なDVDメディアでないとバックアップできない場合があります。詳細は「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプを参照してください。
- 著作権保護されているDVD-Video を「TOSHIBA Disc Creator」を使用してバックアップを作成しても、作成されたメディアで映像を再生することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD-ROM、CD-R、CD-RWからDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R からCD-R、CD-RWへバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、ほかのソフトウェアや、家庭用DVDビデオレコーダで作成したDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのバックアップを作成できないことがあります。

書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

- 「TOSHIBA Disc Creator」では、データが正常に書き込まれたことを確認（簡易チェック）するように設定されています。
  次の手順で確認できます。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［Disc Creator］をクリックする
  「TOSHIBA Disc Creator」の［Startup Menu］画面が表示されます。
  ②［データCD/DVD作成］をクリックする
  ③メインウインドウで［設定］をクリックし、［書き込み設定］→［データCD/DVD設定］をクリックする

  ［データCD/DVD設定］画面が表示されます。
  ④［データチェック］で［書き込み後にデータをチェックする］がチェックされているか確認する
  ［簡易チェック］と［詳細チェック］を選択することができます。

10 DVDの再生にあたって

本項では、「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-VideoフォーマットまたはDVD-VRフォーマットで記録されたディスクを示します。

- 使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- 家庭用DVDレコーダで録画した、ファイナライズされていないDVDはパソコンで再生できない場合があります。
- DVDの再生には、「TOSHIBA DVD PLAYER」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「TOSHIBA DVD PLAYER」を起動し、DVDを再生してください。
- DVD再生ソフト「TOSHIBA DVD PLAYER」では、DVD-VideoとDVD-VRの再生ができます。Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
- DVD再生時は、なるべくACアダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は電源プランで「高パフォーマンス」を選択してください。

付録

- DVDを再生する前に、ほかのアプリケーションを終了させてください。また、再生中にはほかのアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」の起動中は、スリープ、休止状態を実行しないでください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」の起動中は、コンピュータのロック状態に移行する操作（[Windows]＋[L]キーまたは[FN]＋[F1]キーを押す）をしないでください。
- Region（リージョン）コードは4回まで変更することができますが、通常は出荷時のままご利用ください。出荷時の状態では、Regionコードが「2」に設定されておりますので、Regionコードが「2」または「ALL」のDVD-Videoをご使用ください。
- 外部ディスプレイまたはテレビに表示するときは、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、クローン表示設定でDVDを再生することはできません。

参照 表示装置の切替え「4章 9-2 表示を切り替える」

- 外部ディスプレイ側の解像度やリフレッシュレートが高い場合、DVD再生画像が正常に表示されないことがあります。その際はいったん再生を終了し、外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げてご使用ください。

その他の注意については、「TOSHIBA DVD PLAYER」のヘルプに記載しています。
「TOSHIBA DVD PLAYER」のヘルプの起動は、［スタート］ボタン（[スタート]）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA DVD PLAYER］→［TOSHIBA DVD PLAYER ヘルプ］をクリックしてください。

11 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押したりしないでください。画質が低下する原因となります。
  レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてください。

12 顔照合機能について

- 「TOSHIBA Face Recognition」は本人の認証・照合を保証するものではありません。
  登録者の髪型・帽子の有無・眼鏡の有無など登録時と顔に変化があると認識率が低下する可能性があります。
- 登録者に似ている顔を誤照合する場合があります。
- セキュリティを目的としたWindowsパスワードの置き換えには適しません。
  セキュリティが重要な場合には、適切なWindowsパスワードをログインにお使いください。
- 周囲の明るさや光の方向の違いがあると、登録者であっても正しく照合できない場合があります。その場合はWindowsパスワードを使ってログインしてください。
  登録者本人の照合に連続して失敗する場合には、追加学習を行うと照合しやすくなります。
- 顔照合に失敗した顔データをログ情報として記録していますので、パソコンを廃棄するときにはアプリケーションをアンインストールするか、「TOSHIBA Face Recognition」を起動しログを全件削除してください。

- 「TOSHIBA Face Recognition」の使用または使用不能から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して当社は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 当社は、以下に関して一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。
  - ・取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた不便または損害
  - ・当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる不具合、またはその結果生じた不便または損害
  - ・顔情報や照合履歴など記憶内容の消失、あるいは漏えいなどにより生じるいかなる損害、クレームなど（「TOSHIBA Face Recognition」に登録された顔情報など記憶内容は、お客様の責任において管理願います。）
  - ・何らかの原因による登録・照合に関する不動作。および、不動作に起因する損害。

13 レグザリンクについて

- レグザと本製品が正しく接続されているにも関わらず、レグザに付属のリモコンから本製品の操作ができない場合は、一度本製品を再起動し、HDMIケーブルをはずしてから、つなぎなおしてください。

レグザからパソコン本体の電源を操作するには

- レグザから操作して、本製品の電源を入れたり切ったりすることができます。

①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HDMI 連動設定］をクリックする

［HDMI 連動設定］画面が表示されます。

②機能を有効にする場合は、［HDMI 連動を有効にする］と［HDMI 連動対応のテレビから本機の電源のオン、オフをできるようにする］をチェックする

機能を使わない場合は、チェックをはずしてください。

③［OK］ボタンをクリックする

パスワードの入力について

- パスワードの入力を求められた場合には、レグザからパスワードを入力することはできません。

参照 Windows ログオンパスワードについて『Windows ヘルプとサポート』

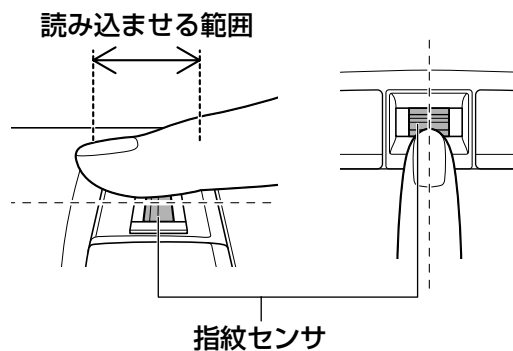
付録

14 指紋認証について

指紋認証の操作にあたって

指紋センサは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサ表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取り扱いをすると故障したり、指紋が認証されない原因になります。
  - ・指紋センサ表面を爪などの硬いものでこすったりひっかいたりする
  - ・指紋センサ表面を強く押す
  - ・濡れた手で指紋センサ表面を触る
    指紋センサの表面に水蒸気などをあてず、乾燥した状態に保ってください。
  - ・化粧品や薬品、砂や泥などの付いた手で指紋センサ表面を触る
    砂などの小さい物でも、指紋センサを傷つける場合があります。
  - ・指紋センサ表面にシールなどをはる
  - ・指紋センサ表面に鉛筆やボールペンなどで書く
  - ・指紋センサ表面を静電気を帯びた手や布などで触る
- 指紋センサをご使用になるときには、次の点にご注意ください。
  - ・手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取る
  - ・金属に手を触れるなどして、静電気を取り除く
    特に空気が乾燥する冬場には注意してください。静電気は指紋センサの故障原因になります。
  - ・眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でセンサの汚れをふき取る
    このとき、洗剤は使用しないでください。
  - ・指と指紋センサが横から見て平行になるように指を置く
  - ・指紋センサと指の中央を合わせせる
  - ・指紋センサの上に第1関節がくるように置く
  - ・すべらせるときにはゆっくりと一定のはやさで手前にすべらせる
    それでも認識されない場合は、はやさを調整してください。
  - ・右の図のように、指を上下や左右にぶれさせず、指紋センサが完全に見える状態になるまで手前にすべらせてください。

付録

- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次のような状態の指は避けてください。
  - ・濡れている
  - ・けがをしている
  - ・ふやけている
  - ・荒れている
  - ・汚れている
    指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録してください。
  - ・乾燥性の皮膚炎などにかかっている
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
  - ・指紋センサの表面が汚れていないか確認する
    汚れている場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使ってください。指紋センサ表面は強くこすらないでください。故障するおそれがあります。
  - ・指の状態を確認する
    傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態、指紋が磨耗した状態、極端に太った場合など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、ほかの指での再登録をおすすめします。
  - ・指の置きかたに注意する
- その他
  - ・2本以上の指を登録することをおすすめします。うまく認識しにくい場合などは、登録しなおすか、ほかの指を登録してください。
  - ・指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
  - ・指紋認証機能は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

Windowsログオンパスワードの設定について

- パスワードがわからなくなった場合、パソコンの管理者アカウントで設定したユーザアカウントがほかにあれば、そのアカウントでログオンしてパスワードの再登録ができます。管理者アカウントで設定したほかのユーザアカウントがない場合は、リカバリをしてください。リカバリをすると、購入したあとに作成したデータなどは、すべて消失します。

参照 Windowsログオンパスワードについて『Windowsヘルプとサポート』

指紋認証のパスワード入力について

- 指紋認証に関連するシステム環境や設定が変更された場合、起動時にユーザパスワードやHDDパスワードの入力を求められることがあります。その場合は、キーボードから各パスワードを入力してください。

2 メディアについて

メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 使えるCDを確認しよう

CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカ

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』でメディアの使用推奨メーカを確認してください。
- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法『Windowsヘルプとサポート』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

付録

2 使えるDVDを確認しよう

■DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。
カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし＊1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）＊2	○

＊1 一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。
＊2 2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

DVDについて／DVDの使用推奨メーカ

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』でメディアの使用推奨メーカを確認してください。
- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。
  このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

  参照 エラーチェックの方法『Windowsヘルプとサポート』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれのメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

3 メディアカードを使う前に

1 メディアカードの操作にあたって

- ブリッジメディア LEDが点灯中は、電源を切ったり、メディアを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアが壊れるおそれがあります。
- メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアを取り出す場合は、必ず使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアが壊れるおそれがあります。

2 SDメモリカード／SDHCメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずminiSDメモリカード用のアダプタを装着した状態で行ってください。
  microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプタを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプタは使用できません。
  miniSDメモリカード／microSDメモリカードにアダプタが付いている場合は、付属のアダプタをご使用ください。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプタに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカード／SDHCメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカード／SDHCメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカード／SDHCメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカード／SDHCメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

付録

SDメモリカード／SDHCメモリカードのフォーマットについて

- Windows上（［コンピュータ］画面）でSDメモリカード／SDHCメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカード／SDHCメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモリカード／SDHCメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。
- 「東芝SDメモリカードフォーマット」でフォーマットするときは、「東芝SDメモリカードフォーマット」以外の、SDメモリカード／SDHCメモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

3 メモリースティックを使う前に

- ブリッジメディアスロットにメモリースティックDuo／メモリースティックPRO Duoをセットするときは、必ずメモリースティック デュオ アダプタを装着した状態で行ってください。
  メモリースティックDuo／メモリースティックPRO Duoにメモリースティック デュオ アダプタが付いている場合は、付属のメモリースティック デュオ アダプタをご使用ください。
- ブリッジメディアスロットからメモリースティックDuo／メモリースティックPRO Duoを取りはずすときは、必ずメモリースティック デュオ アダプタに装着したままの状態で行ってください。
- 本製品は、著作権保護技術MagicGateには対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

4 xD-ピクチャーカードを使う前に

- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

5 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

4 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（フロッピーディスク、半導体メモリ、CD、DVDなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。
初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザ）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザ登録」といいます。お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。
お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

登録方法

お客様の環境に応じて、登録方法を選択できます。

■方法1 - ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネットに接続後、登録用のホームページに簡単にアクセスできます。

■方法2 - インターネットからのご登録方法

インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。
登録用ホームページ：http://room1048.jp

参照 インターネット接続「3章 1 ネットワークで広がる世界」

商品の追加登録は「方法1」または「方法2」で行います。
ここでは、「方法1」を紹介します。

付録

1 [東芝お客様登録] アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダとの契約をしてある場合に、[東芝お客様登録] アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続しているあいだの通信料金やプロバイダ使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。
- 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、操作の途中で、検索ツールの利用を確認する画面が表示される場合があります。
  画面に従って操作してください。

1 デスクトップ上の [東芝お客様登録] アイコン（ ）をダブルクリックする

[「お客様登録」のお願い] 画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

4 技術基準適合について

■瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

■高調波対策について

本装置は、「JIS C 61000-3-2 適合品」です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性ー第3-2部：限度値ー高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

参照 「7章 2-6-Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

■FCC information

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's external monitor port, Universal Serial Bus (USB2.0) ports, eSATA/USB combo port, i.LINK (IEEE1394) port, HDMI out port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:
1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

■EU Conformity Statementについて

This product and - if applicable - the supplied accessories too are marked with "CE" and comply therefore with the applicable harmonized European standards listed under the Low Voltage Directive 2006/95/EC, the EMC Directive 2004/108/EC and/or R&TTE Directive 1999/5/EC.

Responsible for CE-marking:
TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

Manufacturer:
Toshiba Corporation, 1-1 Shibaura 1-chome, Minato-ku, Tokyo, 105-8001, Japan

The complete official EU CE Declaration can be obtained on following internet page:
http://epps.toshiba-teg.com/

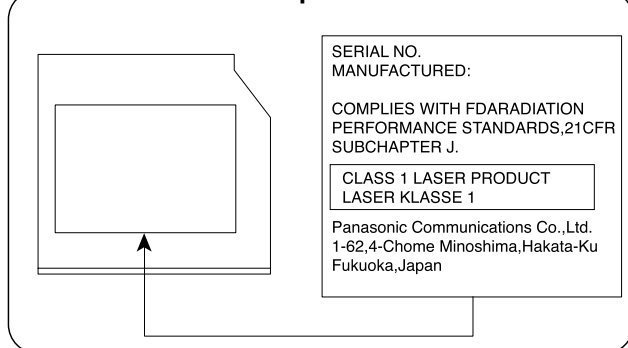
Panasonic DVDスーパーマルチドライブUJ870 （DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応） 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825-1で“クラス１レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
   本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

TEAC DVDスーパーマルチドライブDV-W28S
（DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応）
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

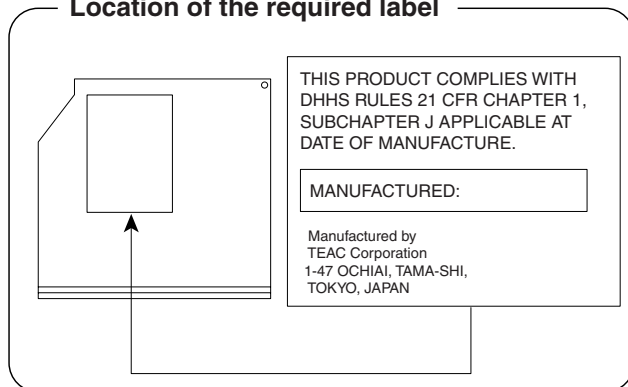
⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825-1で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO!	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

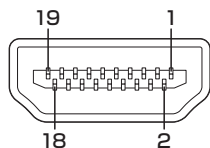
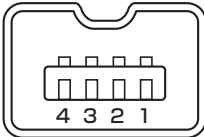
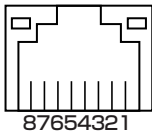
2. 分解および改造をしないでください。
   感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

付録

5 各インタフェースの仕様

1 HDMI出力端子

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	TMDS Data2+	TMDSデータ（2+）	O
2	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ（2）シールド	
3	TMDS Data2-	TMDSデータ（2−）	O
4	TMDS Data1+	TMDSデータ（1+）	O
5	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ（1）シールド	
6	TMDS Data1-	TMDSデータ（1−）	O
7	TMDS Data0+	TMDSデータ（0+）	O
8	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ（0）シールド	
9	TMDS Data0-	TMDSデータ（0−）	O
10	TMDS Clock+	TMDSクロック（+）	O
11	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
12	TMDS Clock-	TMDSクロック（−）	O
13	Reserved	予約	
14	Reserved	予約	
15	SCL	SCLデータクロック信号	O
16	SDA	SDA通信信号	I/O
17	DDC/CEC Ground	DDC/CEC信号グランド	
18	+5V Power	電源	
19	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	I
コネクタ図			

信号名　　　　：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

2 i.LINK（IEEE1394）インタフェース

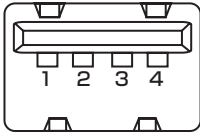
ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	TPB−	ストローブ受信／データ送信（2対の差動信号）	I/O
2	TPB+	ストローブ受信／データ送信（2対の差動信号）	I/O
3	TPA−	データ受信／ストローブ送信（2対の差動信号）	I/O
4	TPA+	データ受信／ストローブ送信（2対の差動信号）	I/O
コネクタ図			
4 3 2 1			

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 LANインタフェース

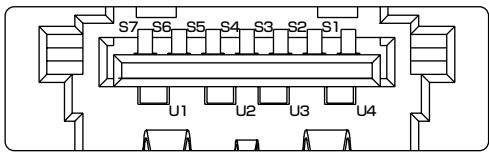
ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA（+）	I/O
2	BI_DA-	送受信データA（−）	I/O
3	BI_DB+	送受信データB（+）	I/O
4	BI_DC+	送受信データC（+）	I/O
5	BI_DC-	送受信データC（−）	I/O
6	BI_DB-	送受信データB（−）	I/O
7	BI_DD+	送受信データD（+）	I/O
8	BI_DD-	送受信データD（−）	I/O
コネクタ図			
87654321			

信号名　　　：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 RGBインタフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O
コネクタ図			

高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

5 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	+5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

1 2 3 4

信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

6 eSATA／USBインタフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
S1	GND	グランド	
S2	A+	eSATAプラスデータ	O
S3	A-	eSATAマイナスデータ	O
S4	GND	グランド	
S5	B-	eSATAマイナスデータ	I
S6	B+	eSATAプラスデータ	I
S7	GND	グランド	
U1	VBUS	+5V	
U2	D-	USBマイナスデータ	I/O
U3	D+	USBプラスデータ	I/O
U4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

S7 S6 S5 S4 S3 S2 S1
U1 U2 U3 U4

信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

6 無線LANについて

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n draft2.0に準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 周波数チャネル選択
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント

メモ

- 本製品に内蔵されているIEEE802.11nに準拠した無線LANモジュールは、リリースバージョンdraft2.0の仕様に基づいております。そのため、正式規格対応製品や他社のドラフト版対応製品とは互換性やすべての機能を保証するものではありません。
- 本製品と同等の構成を持った機器との通信を行う場合に、IEEE802.11n draft2.0準拠の通信を行うことが可能です。

付録

2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線周波数帯	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n draft2.0	2.4GHz（2400-2497MHz）
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
	IEEE802.11n draft2.0	直交周波数分割多重方式（OFDM方式), 空間多重方式（MIMO方式）

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線LANがサポートする2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャネルセット」参照）。

■無線IEEE802.11 チャネルセット

- 2.4GHz帯：2400〜2497MHz（IEEE802.11b/g、IEEE802.11n draft2.0の場合）

チャネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457*1
11	2462
12	2467
13	2472

＊1 購入時に、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

無線LANをインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線LAN接続する場合、ステーションが自動的に無線LANアクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線LANアクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

■ステッカー

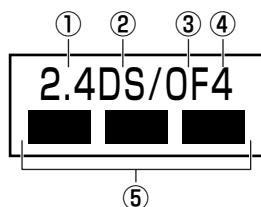
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

付録

■現品表示

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
③ OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
④ 4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
⑤ ■ ■ ■ ：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『取扱説明書』の巻末を参照してください。

5 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名 ：AR5B91-X
株式会社 ディーエスピーリサーチ
認証番号 ：D080273003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

6 お知らせ

無線製品の相互運用性

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision b/g/n draft2.0)（無線LAN標準規格(版数 b/g/n draft2.0)）
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証
  Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

健康への影響

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
本製品に内蔵されている無線LANモジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に内蔵されている無線LANモジュールのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の取扱説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.
The tern "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical spacifications were met.

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna
- Increase the separation between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Atheros AR9281 Wireless Network Adapter, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Atheros AR9281 Wireless Network Adapter is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Atheros AR9281 Wireless Network Adapter shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.
In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user’s manual for the details regarding antenna location.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/99ehd-dhm237/index-eng.php.

●Europe

Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed.
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

付録

●Taiwan

Article 12
Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to an approved low power radio-frequency devices.
Article 14
The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications;
If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.
The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.
The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

7 使用できる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

アイスランド	オーストラリア	スリランカ	ノルウェー	マルタ
アイルランド	オーストリア	スロバキア	バーレーン	マレーシア
アゼルバイジャン	オランダ	スロベニア	ハンガリー	南アフリカ
アメリカ合衆国	カナダ	セルビア	フィリピン	メキシコ
アラブ首長国連邦	韓国	台湾	フィンランド	モナコ
アルゼンチン	キプロス	チェコ	フランス	モンテネグロ
イギリス	ギリシャ	中国	ブルガリア	ヨルダン
イタリア	クロアチア	チリ	ベトナム	ラトビア
インド	コロンビア	デンマーク	ベネズエラ	リトアニア
インドネシア	サウジアラビア	ドイツ	ペルー	リヒテンシュタイン
ウルグアイ	シンガポール	トルコ	ベルギー	ルーマニア
エクアドル	スイス	日本	ポーランド	ルクセンブルク
エジプト	スウェーデン	ニューカレドニア	ボスニア･ヘルツェゴビナ	レバノン
エストニア	スペイン	ニュージーランド	ポルトガル	ロシア

（2008年10月現在）

- 802.11nモードでは、アドホック通信は使用できません。
- 802.11bモードおよび802.11gモードでのアドホック通信は、チャネル1～チャネル11で使用できます。
- 802.11bモードおよび802.11gモードでのインフラストラクチャ通信は、チャネル1～チャネル13で使用できます。

付録

7 東芝サービスステーションについて

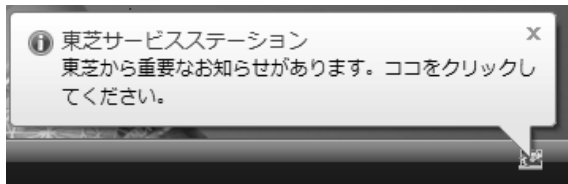
「東芝サービスステーション」は、ソフトウェアのアップデートや重要なお知らせを自動的に提供するためのソフトウェアです。
このソフトウェアは動作に必要な機器の識別情報などを弊社のサーバへ送信します。
使用できるように設定する前に、詳しい内容を説明した使用許諾書が表示されますので、よくお読みください。

メモ

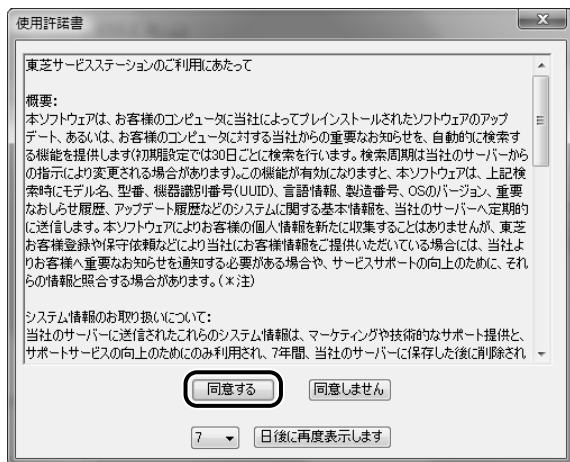
- 「東芝サービスステーション」を使用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。
- 「東芝サービスステーション」は、本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバやBIOSのうち、一部についてアップデートをお知らせします。このため、「あなたのdynabook.com」や「dynabook.com」、「Microsoft Update」などのサイトにアクセスし、よくあるご質問（FAQ）やウイルス・セキュリティ情報などとあわせてご利用ください。

設定方法

「東芝サービスステーション」を使用できるように設定する方法は、次のとおりです。

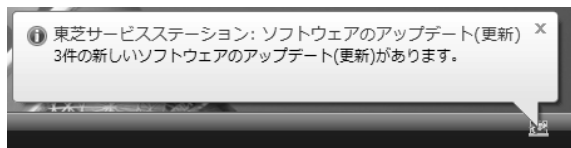
1 **パソコン起動後、しばらくしてから通知領域に表示されるメッセージをクリックする**

または、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［サービスステーション］をクリックしてください。
初めて起動したときは、本ソフトウェアに関する詳しい説明（使用許諾書）が表示されます。

付録

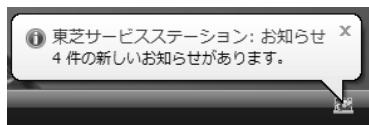
2 内容を確認し、[同意する] ボタンをクリックする

使用許諾書に同意すると、以降はソフトウェアのアップデートや弊社からのお知らせを検出する機能が、パソコンを起動すると自動的に動作します。

使用方法

■ソフトウェアのアップデートがある場合

本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバやBIOSのうち、一部についてアップデートがあることを検知すると、次のメッセージが表示されます。

メッセージをクリックし、画面の指示に従って操作してください。

■本製品に対するお知らせがある場合

本製品に対する弊社からのお知らせが準備されたことを検出すると、次のメッセージが表示されます。

メッセージをクリックし、画面の指示に従って操作してください。

手動で、ソフトウェアのアップデート、またはお知らせを確認したい場合は、[スタート] ボタン( )→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [サービスステーション] をクリックしてください。